

大学キャンパスの 新しい 中心空間を考える

- 大東文化大学(板橋)
- 工学院大学(八王子)学生センター
- 東北大学(青葉山1)センタースクエア
を通して

初期の設計
福岡大学A棟(元倉真琴と協働)1996年
・半外部の骨格空間をつくる





工学院大学(八王子)15号館
2000年
・中庭をつくる
・半外部空間の活用



プロポーザルで大学施設は10/26 PROJECTS

(1999年～2013年で18/89 PROJECTS)

- 1999年(3)
 - ■東雲チャンネルコート3街区
 - ■東雲チャンネルコート6街区
 - ■沖縄中の町区(▲ ヒアリング)
- 2000年(3)
 - ■大東文化大学(板橋)
 - ■いわき光洋高校
 - ■岐阜県警警察庁舎(▲ ヒアリング)
- 2001年(4)
 - ■カーディフオフィスインテリア
 - ■青森集合住宅
 - ■戸田市芦原小学校(▲ ヒアリング)
 - ■印西牧の原駅前飲食業務等ビル
- 2002年(3)
 - ■伊勢崎市営住宅
 - ■函館中央図書館
 - ■鯖江市中河小学校(▲ 次点)
- 2003年(6)
 - ■大阪市住吉区複合施設
 - ■会津小学校(パティオのある学校)
 - ■初台の住宅
 - ■加賀市立湖北小学校(▲ 入選)
 - ■加賀市立金明小学校(▲ 入選)
 - ■皆野小学校
- 2004年(1)
 - ■豊島区医師会館
- 2005年(5)
 - ■岩見沢駅舎
 - ■成城タウンハウス(▲ 5者ヒアリング)
 - ■小田原城下町ホール
 - ■工学院大学(八王子)
スチューデントセンター
 - ■つくばスタイル

● 2006年(5)

- ■山形大学100周年記念館
- ■袋井市交流プラザ(▲ ヒアリング)
- ■塩尻複合施設
- ■あいおい損保自由が丘ビル
- ■沖縄恩納村リゾートホテル(実施なし)

● 2007年(5)

- ■桜川複合文化施設
- ■長岡市厚生会館
- ■小布施町立図書館
- ■赤羽台団地C工区
- ■村山複合文化施設(▲ ヒアリング)

● 2008年(7)

- ■慶応大学理工学部(矢上)教育研究施設
- ■浅草文化観光センター
- ■杉並区大宮前体育館
- ■南青山商業施設(実施なし)
- ■玉川医師会改修
- ■伊達市保原小学校(▲ ヒアリング)

● ■東北大学(青葉山1)センタースクエア

2009年(12)

- 東北大学(片平)外国人研究員等宿泊施設
- 東北大学(青葉山1)工学研究材料共同研究棟
- 燕市庁舎
- 富山県消防学校(▲ ヒアリング)
- 江北団地再生
- 墨田区葛飾北斎館
- 東京大学(駒場)先端エネルギー研究拠点
- 自然科学研究機構分子科学研究棟
- 東北大学(星稜)加齢医学研究所
- ナショナルトレーニングセンター
- 大喜多町役場
- 柏崎ホール

2010年(5)

- 工学院大学八王子キャンパス教室棟
- TUTAYA代官山プロジェクト
- 岐阜複合施設(ベスト5)
- 東北大学(星稜)オーデトリウム
- 九州大学(伊都)有機光エレクトロニクス研究棟

● 2011年(12)

- ■名古屋大学(東山)動物実験施設(▲次点)
- ■七ヶ浜保育所
- ■大分美術館
- ■東北大学青葉山東キャンパスマテリアル本棟
- ■東北大学三条宿泊棟
- ■富山県中部高校(▲ 5者ヒアリング)
- ■京都府新総合資料館(▲ 入選)
- ■富岡駅舎
- ■沖縄看護研究センター
- ■東京工業大学(大岡山)
グリーンマテリアル・イノベーション拠点施設
- ■岩手大学工学部実験棟
- ■前橋美術館

● 2012年(10)

- ■東京藝術大学学生寮
- ■気仙沼市災害公営住宅
- ■只見町役場新庁舎
- ■守山中学校校舎改築
- ■おしなり商店街街並みリニューアル
- ■住田町新庁舎
- ■富岡市庁舎
- ■福島大学うつくしまふくしま未来支援センター棟
- ■三重大学(▲ 次点)
- ■宮城県七ヶ浜中学校

● 2013年(8)

- ■長崎大学(坂本1)総合研究棟
- ■富山大学(五福)総合研究棟(工学系)
- ■三好市交流拠点施設基本設計プロポーザルコンペ
- ■東京工業大学(すずかけ台)元素戦略研究拠点
- ■東京工業大学(大岡山)地球生命研究所研究棟
- ■東京大学(豊島)新豊島国際学生宿舎
- ■東京藝術大学共感覚イノベーションセンター
- ■石巻市災害復興住宅

■大東文化大学板橋キャンパス

2005年

- 1 図書館と学生食堂でキャンパスの中心をつくる
- 2 低層のキャンパス
- 3 中庭の創出
- 4 立体的交流空間の創出(スパイン空間)
- 5 半屋外空間の活用

○出会いの場は、自由で開放的な外部空間から生まれる。大学生活のステージ(舞台)として、中庭と広いテラス、まわりの回廊などの外部空間。そして低層接地区教室棟の水平動線は、人々の出会いを誘発する最も重要な空間要素である。
 (ハーバード大学やバージニア大学などの多くの有名大学には、すばらしい中庭(コールドラングル)がある。)



バージニア大学 ザ・ローン



ハーバード大学 オールドヤード

■計画の目標「キャンパスのしっかりした骨格をつくる」

□大学キャンパスの伝統的系譜を継承しつつ、低層の建物、中庭や広いテラス、それらを中心回廊など、自由で開放的な共用空間をもった、創造的な教育・研究の環境を創造する。私たちは本学のキャンパスの骨格として、

- ①<半外部回廊(スパイン)>
- ②<図書・情報教育センター>
- ③<緑のキャンパスの社>をもつ、

中庭(コールドラングル)型のキャンパスを提案する

①狭路な都市型キャンパスでは、できるだけ多くの空間を人と人との出会いの場として使いたい。半外部の回廊(スパイン)で教育・研究棟を結びつけ、そこに学生達の交流スペースを確保する。

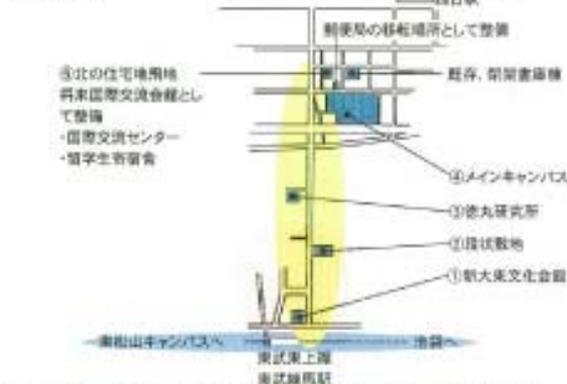
②知の殿堂としての大学の文化的シンボルは図書棟である。これを図書・情報教育センターとして拡大展開し、情報メディアの自由な利用もできる学生の創造の場として、キャンパスの中央に配置する。

③これらを含み込む緑のキャンパスの社として<交流の社>と<思索の社>を創出する。

この3つの空間要素により構成される中庭(コールドラングル)が都市



スを学生・教員の教育・研究機能、そして住宅地内を居住主体の機能とする。



①東武練馬駅そばの現文化会館は、外部と関係する管理室や公開講座及び外部の応接用である同窓会館等の機能を担う。同時に現在のバス拠点として存続する。

②中間の飛地(段状敷地)は公開講座・セミナーハウス機能を充実し、第二文化会館としての機能を担う。下層にはバスの駐車場を配置する可能性も検討する。

③徳丸研究所のように、メインキャンパスとの間には独立した研究所が置かれる。

④⑤の機能は近隣コミュニティに対し、知的な空間・魅力づくりに協力する。

④メインキャンパスは、3,4年学部、大学院、研究室、研究所を中心とし、公開講座を少なくとも教育・研究活動に敷地を十分に活用する。

⑤北の住宅地飛び地は、街区単位に整理できると利用しやすいが、国際交流センターとして、居住系の機能を担う。

主体の林とし、「思索の社」は層感のある常緑樹により深い社の雰囲気をつくる。

○北の住宅地側には4層の教室・研究室棟を2棟設け、その西側には半地下に埋め込まれた体育館をつくる。

○エネルギーセンターのある図書・情報教育センターを中心として、南北、東西方向に、共同溝をもつ道路回廊を設け、全体の主動線とする。

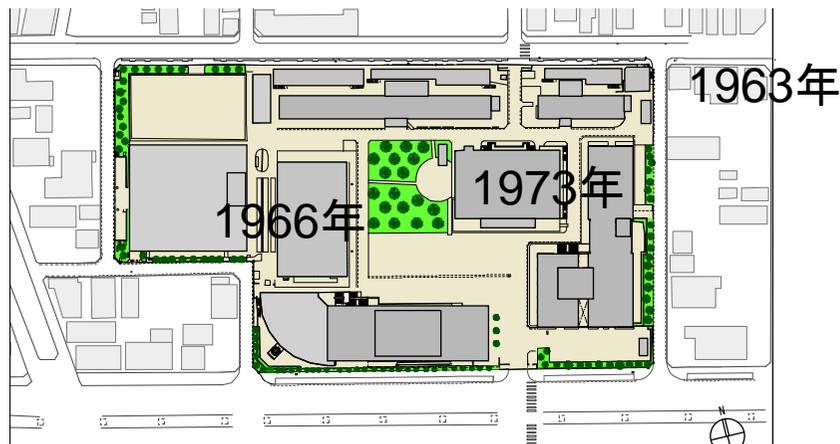


コンクリートジャングルの街からキャンパスに入ると緑の林と大階段回廊が学生たちを迎える

プロポーザル時の提案



整備前の施設配置



再開発
以前



- 1)中央棟・図書館
- 用途 図書館・学生食堂・多目的ホール
- 構造 煉瓦造/鉄筋コンクリート造
- 階数 地下1階 地上5階
- 建築面積 2,397.05㎡、延床面積 7,269.23㎡
- 2)3号館
- 用途 教室・研究室
- 構造 鉄筋コンクリート造/鉄骨造
- 階数 地下1階 地上5階
- 建築面積 2,676.09㎡、延床面積 7,116.00㎡

3号館(改)

研究管理棟(存)

改修

体育館(改)

改築

4号館(存)

ハウス(存)

高校(存)

再開発 マスタープラン

○建物概要

1)中央棟・図書館

用途 図書館・学生食堂・多目的ホール

構造 鉄骨造/鉄筋コンクリート造

階数 地下1階 地上5階

建築面積 2,397.05㎡、延床面積 7,269.23㎡

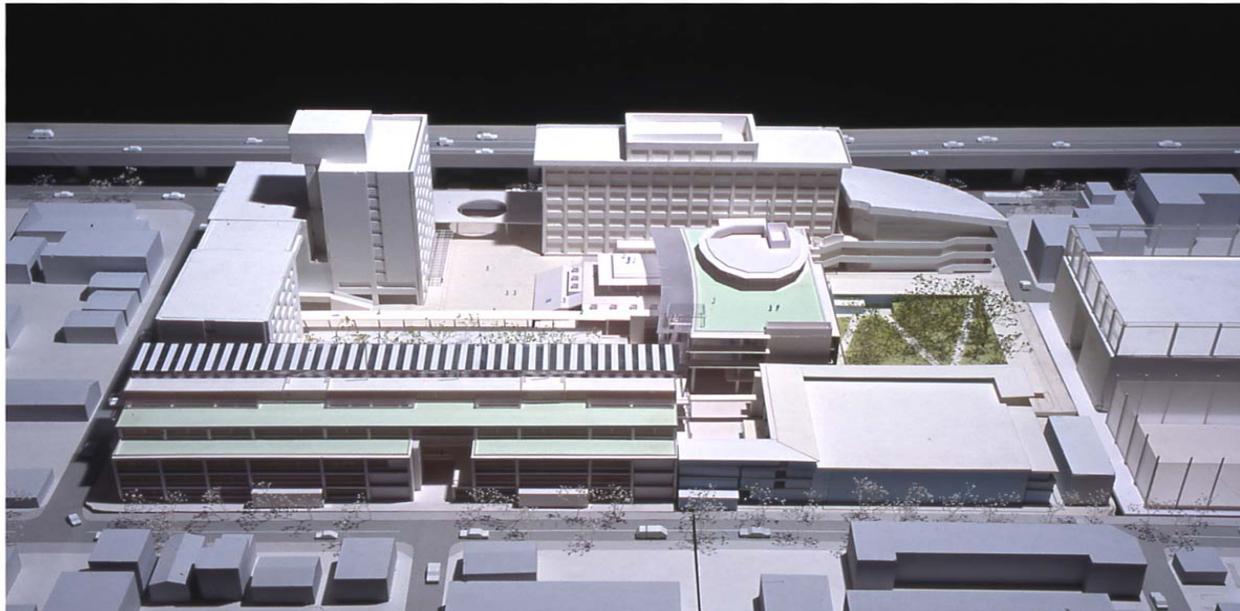
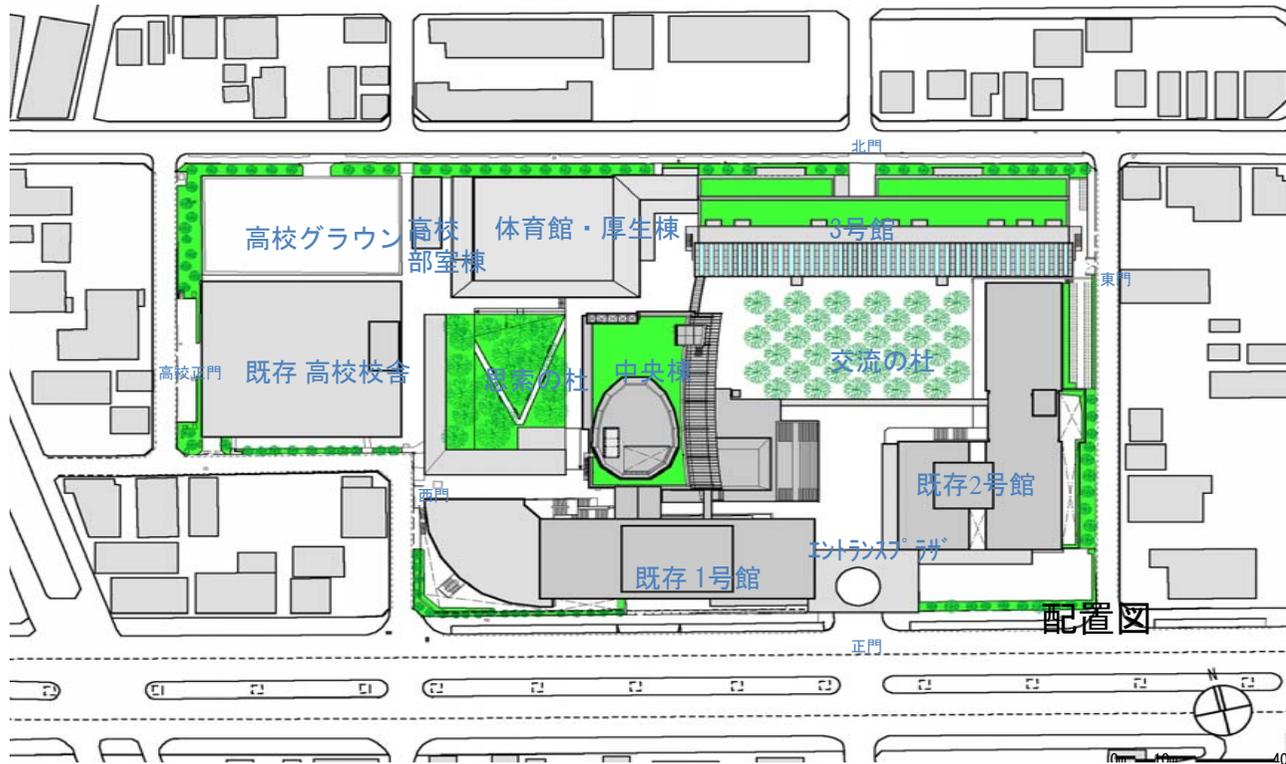
2)3号館

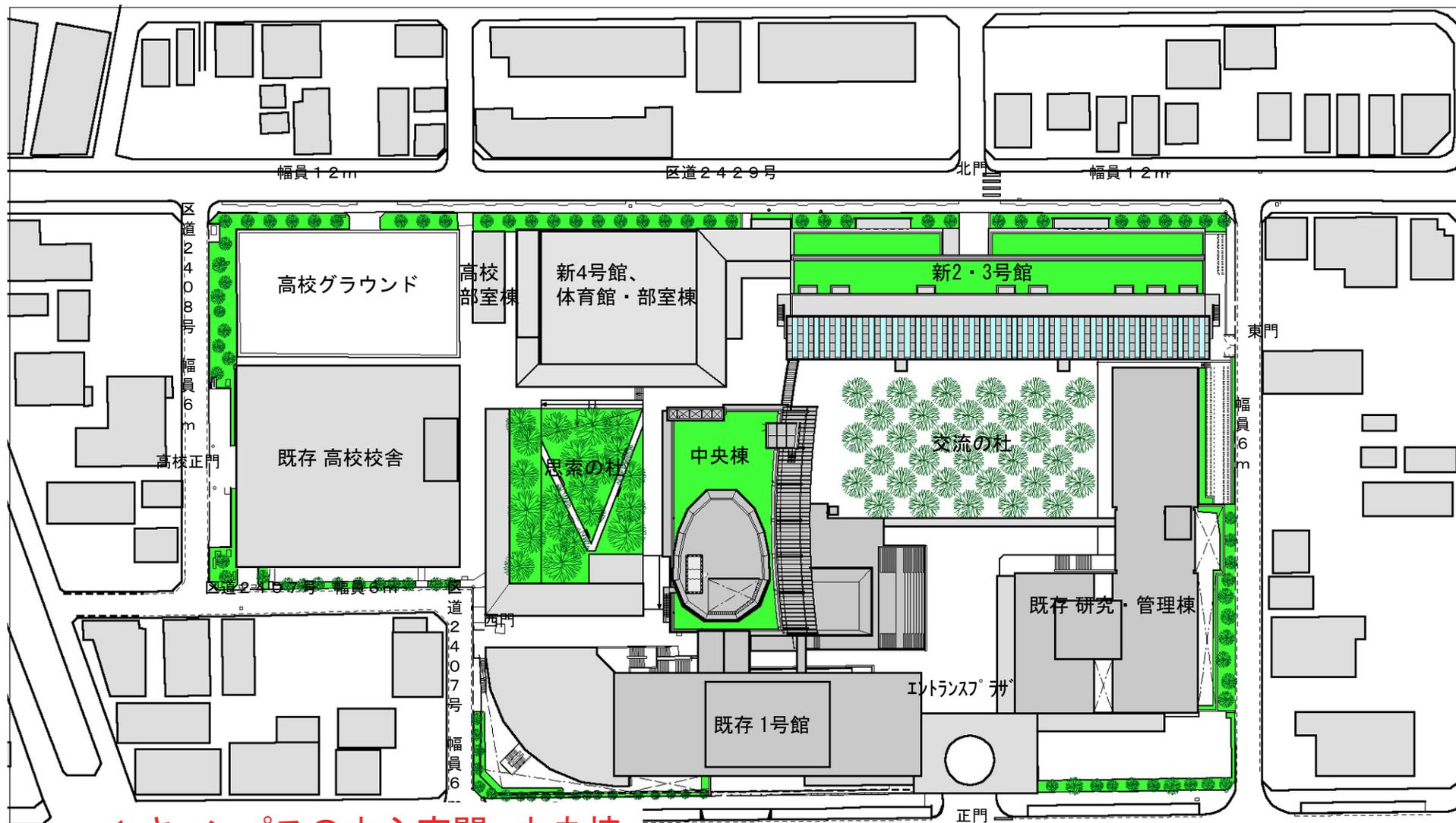
用途 教室・研究室

構造 鉄筋コンクリート造/鉄骨造

階数 地下1階 地上5階

建築面積 2,676.09㎡、延床面積 8,716.00㎡





1. キャンパスの中心空間 中央棟

2. 低層の建物

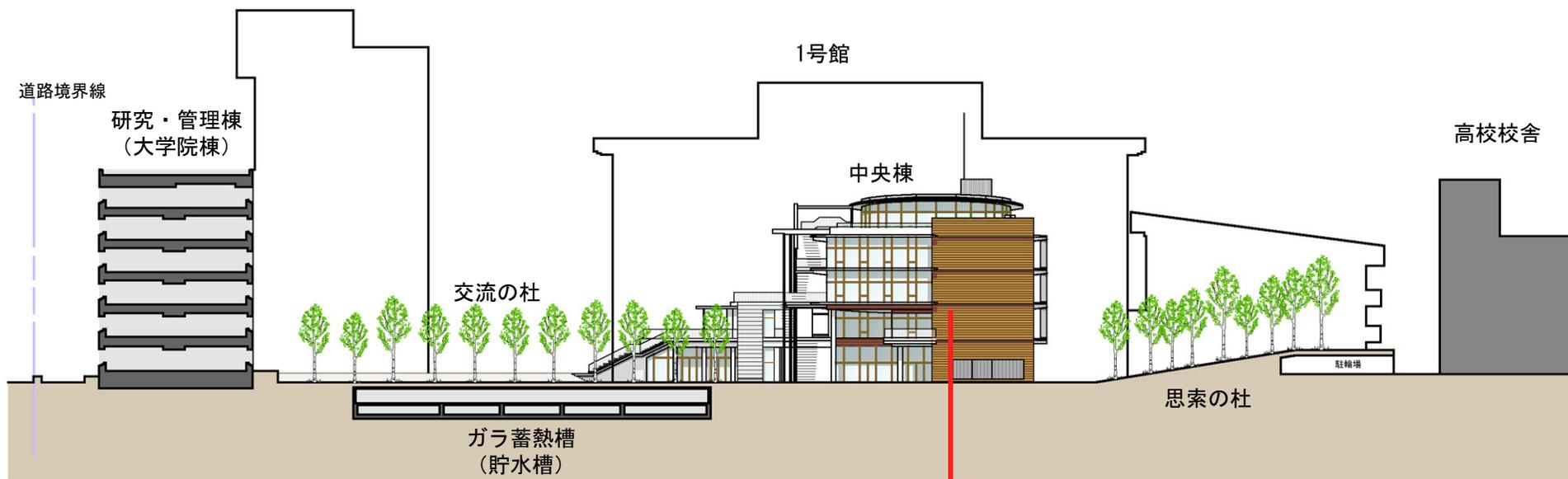
3. 中庭空間の創出

4. 立体的交流空間の創出

長後赤塚446号 幅員40m

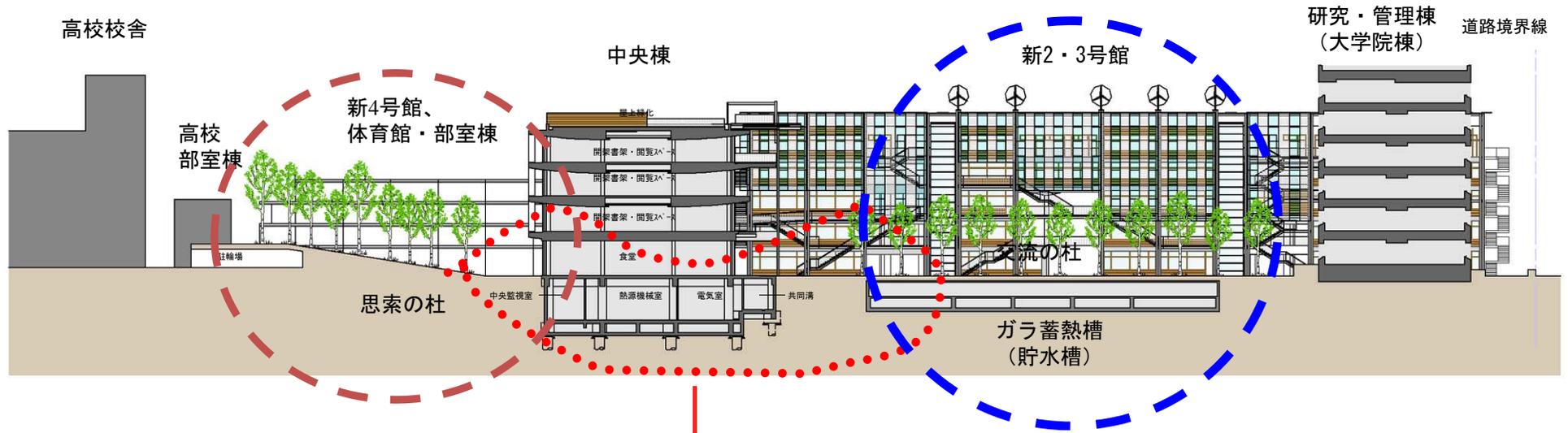
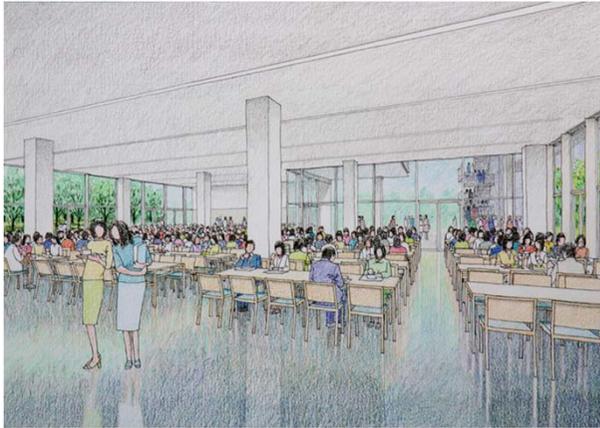
新キャンパスの空間構成

1 複合施設で キャンパスの中心をつくる



図書館
食堂
多目的ホール
メディアルーム

中央棟



レストラン

2つの中庭を中央棟のレストランがつなぐ



中央棟図書館



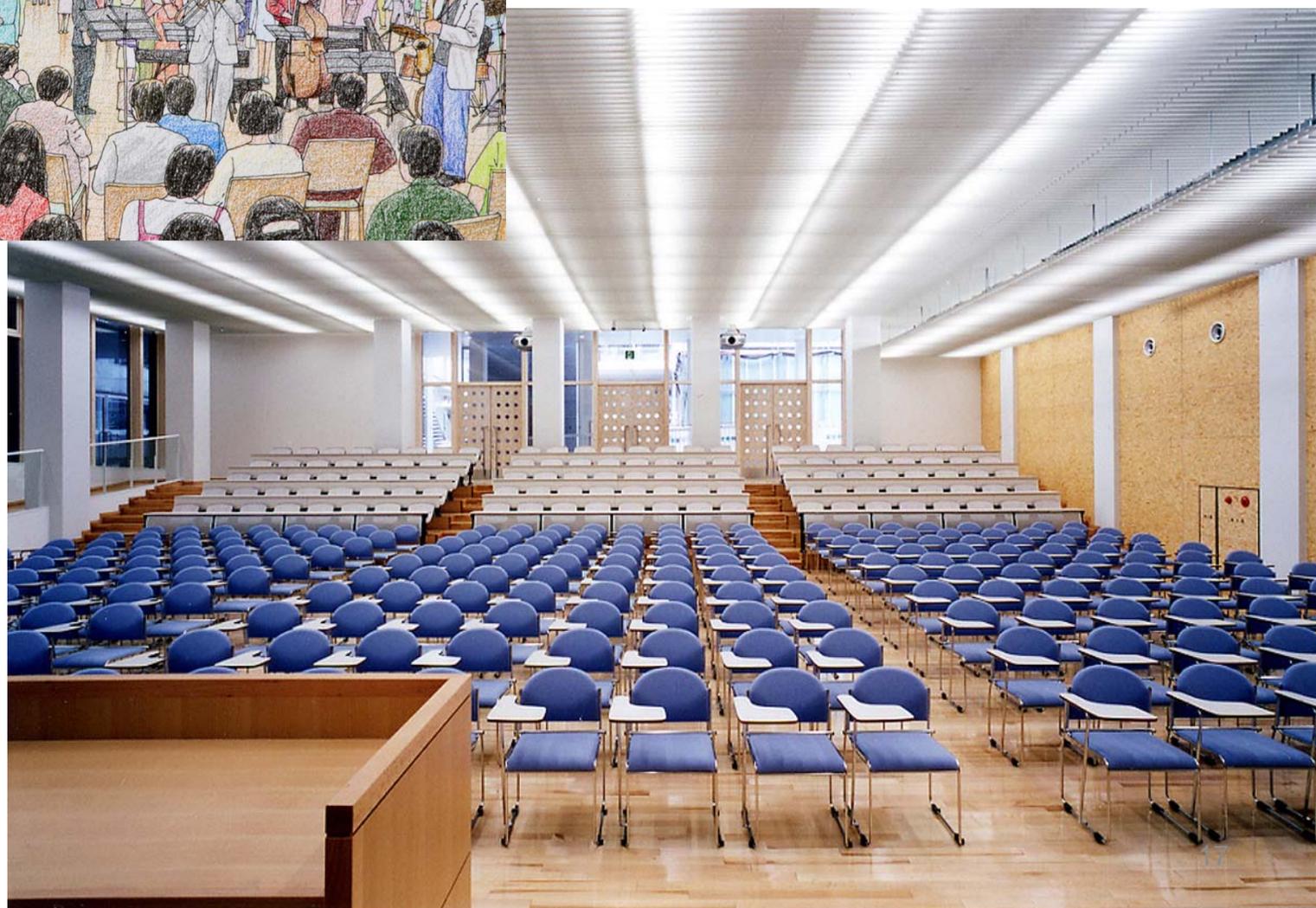
中央棟
図書閲覧室

図書館屋上の クワイエットルーム





バンケットも可能な 多目的ホール





活動がにじみだす立面



食堂前テラス空間

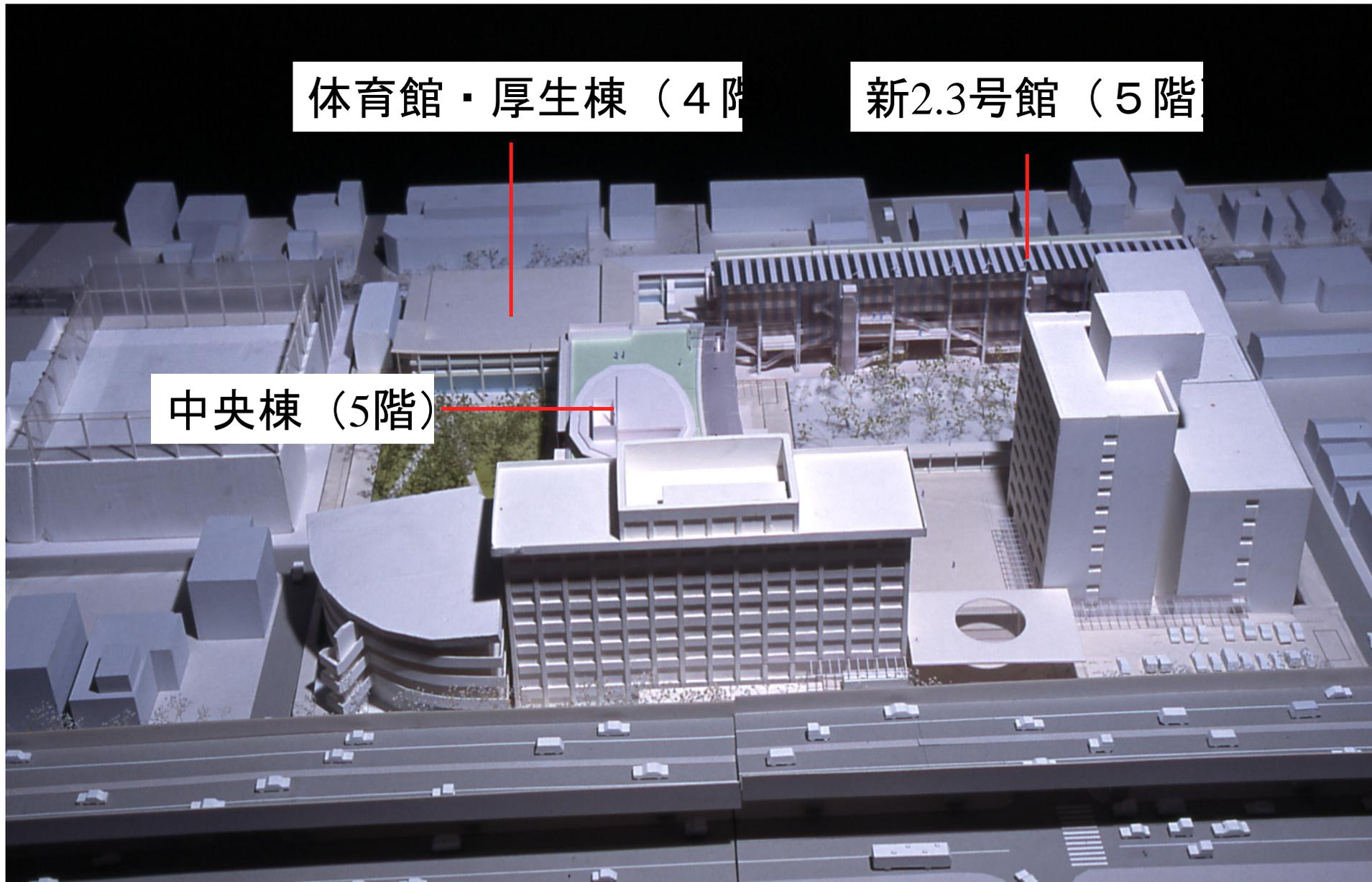


テラス上の24h情報センター

体育館・厚生棟（4階）

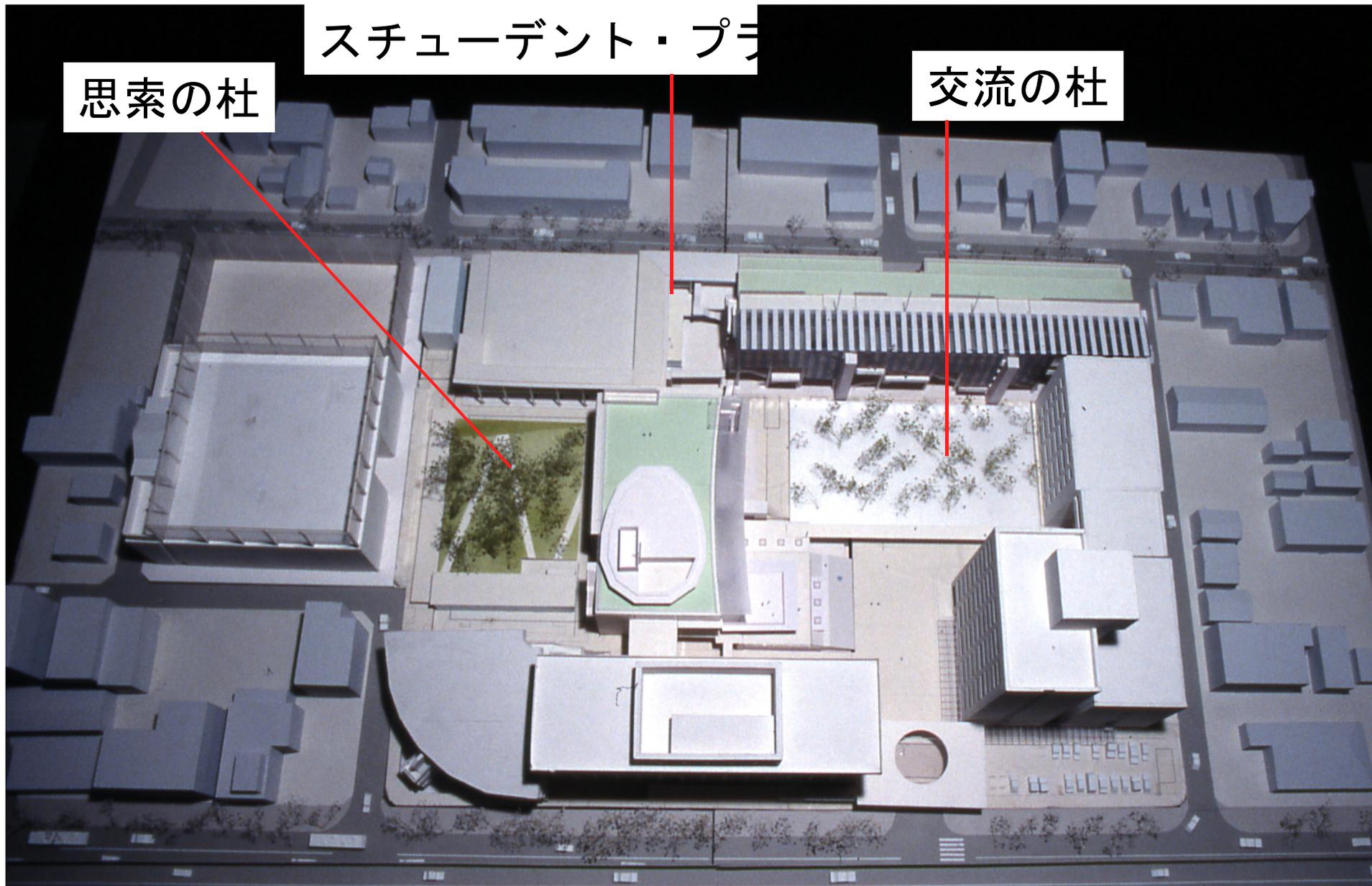
新2.3号館（5階）

中央棟（5階）



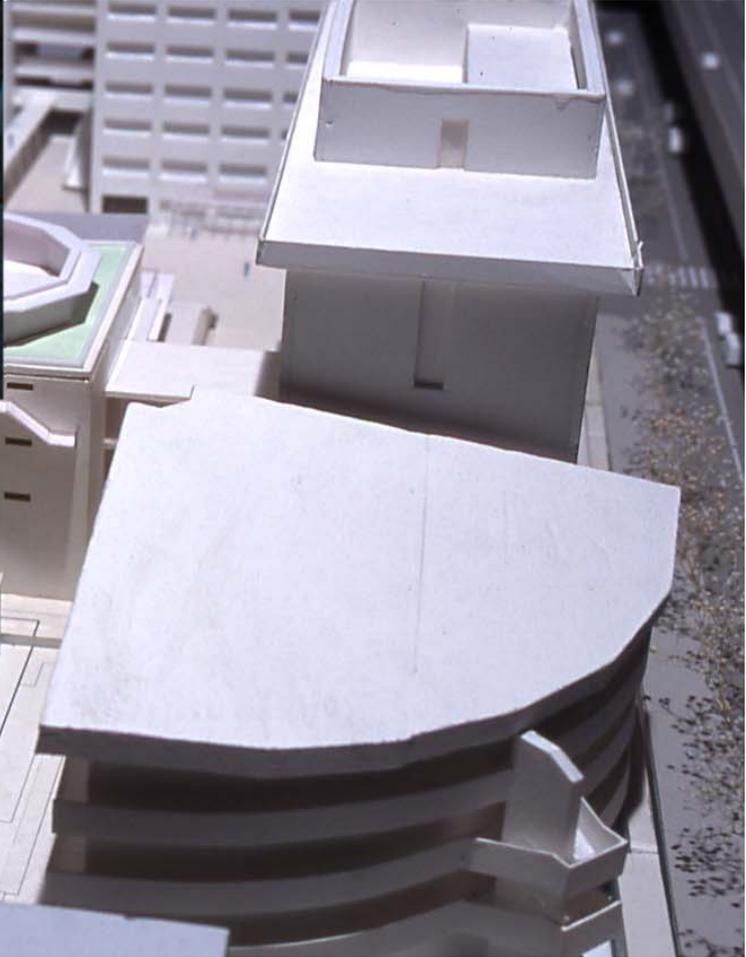
2. 低層のキャンパス

出会い機会増大 高層都心型大学の否定 ビル風を避ける 自然とのふれあい



3. 中庭空間の創出

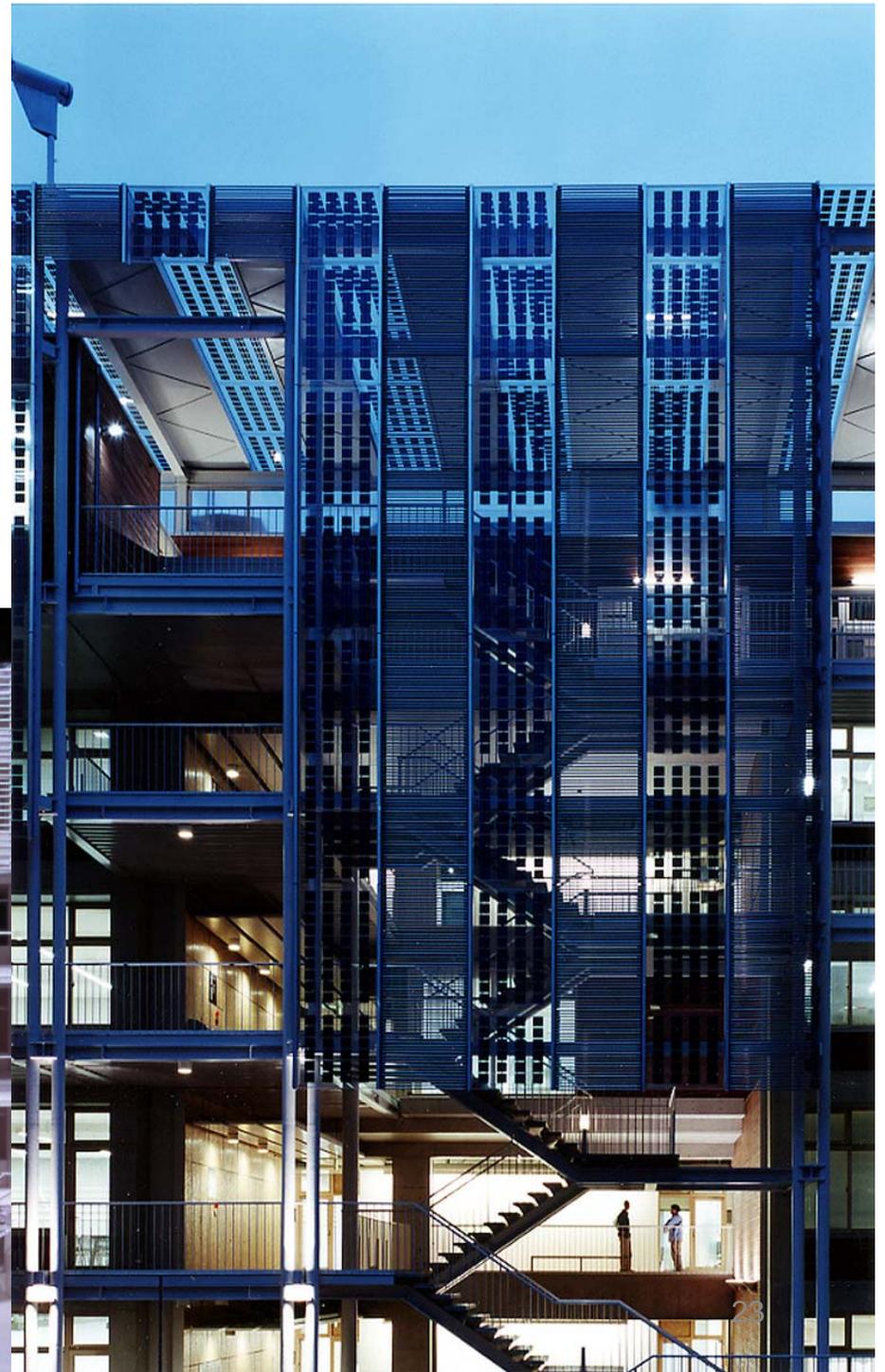
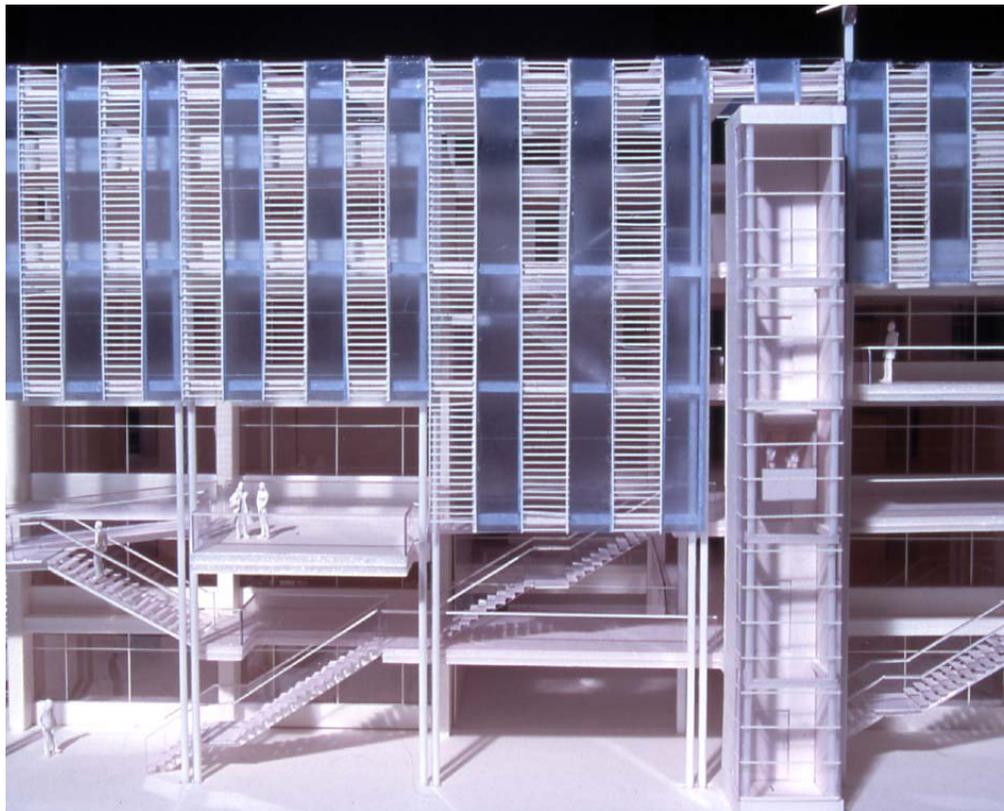
クオドラングル 人との出会い 近隣への騒音配慮 強風を避ける囲み

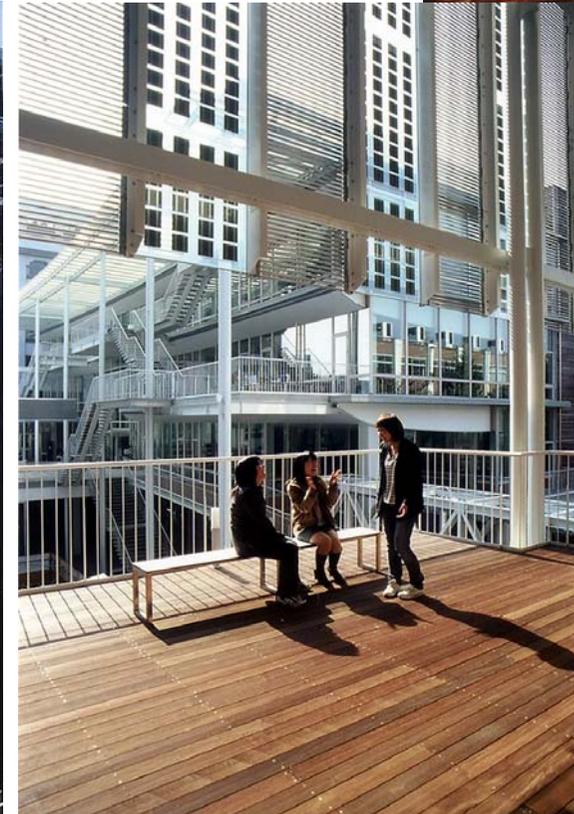
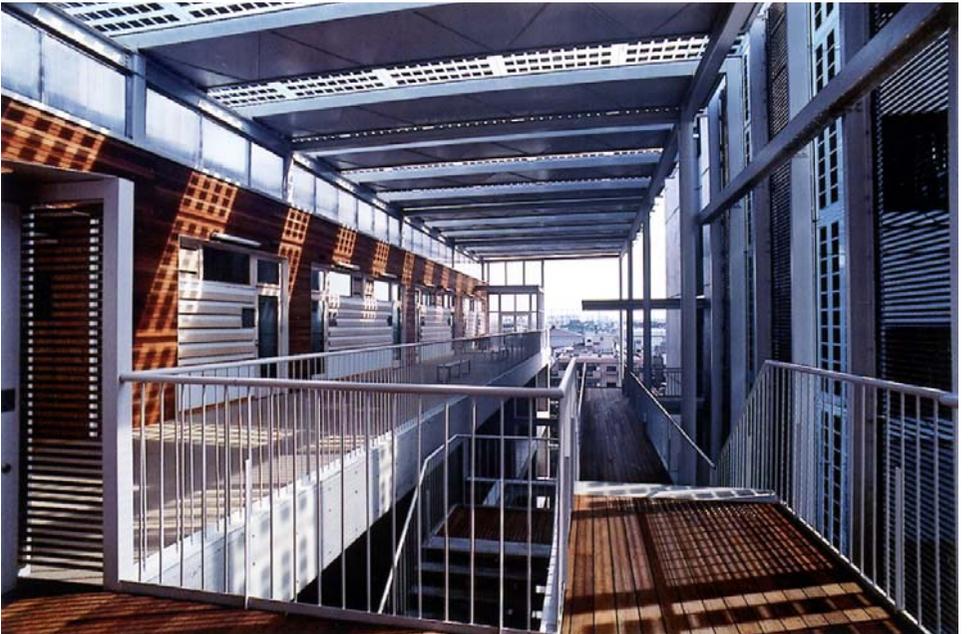


4.立体的交流空間の創出(スパイン空間)

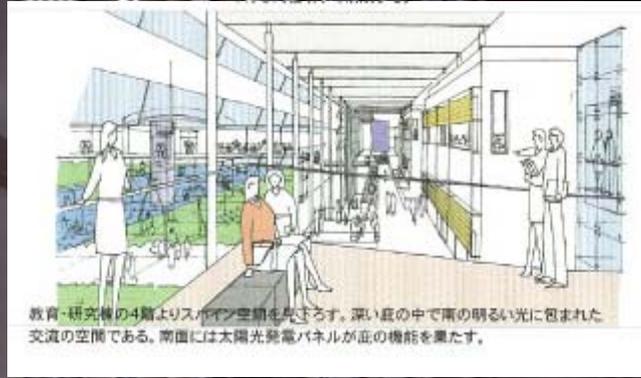


5.半屋外スパイン空間で 構成する南立面 教室棟

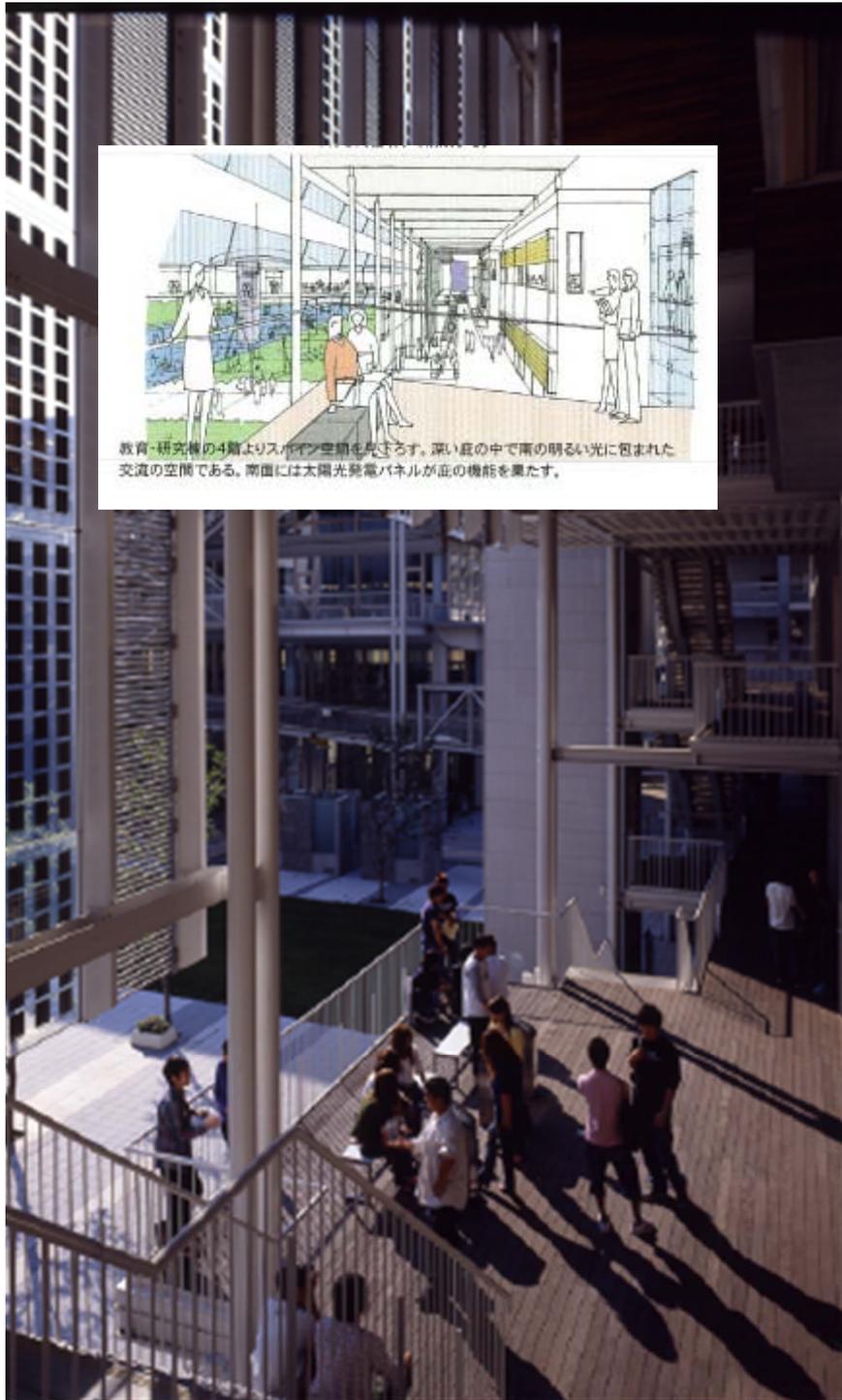




シースルー型
太陽光発電パネルに
囲われたスパイン



教育・研究棟の4階よりスロイン空間を貫通する。深い庇の中で雨の明るい光に包まれた交流の空間である。南面には太陽光発電パネルが庇の機能を果たす。



■工学院大学 スチューデントセンター

1.複合用途の学生会館が中心をつくる

食堂
学生ラウンジ
多目的ホール
クリエイションラボ
生協売店
部室

2.半屋外空間 オープンステップテラス

3.居心地の良い屋外空間をつくる中庭

4.スパイラル状の空間構成様々な場所



緑の中のオープンステップテラス

キャンパスの顔をつくる
八王子キャンパスの印象イメージを代表する「顔」となる建物をつくります。

1. 緑にとけあう建物：周辺の緑とのつながりを保ちます

基本道の連続性を確保する

キャンパス空間を南北に貫く基本道の連続性を確保して、両基本道を連続させつつ、建物は基本道から十分にセットバックさせて配置します。建物はこの南北軸の基本道と、パシロータリーから図書館側のロビయాを抜けてくる東西軸とがクロスする交差点に位置するので、多くの学生たちが集う賑わいの場となるポテンシャルを持っています。そこで、ここにおおらかな中外部空間を創り入れたい学生たちにとって気持ちの良い空間を構築します。

敷地に「緑木林の広場」をつくる

周囲の新しい敷立線との間にできるオープンスペースは、この地のかつての広場を呼び覚ます緑木林におおらかな広場として計画することを提案し、建物をこの広場に向かって開きます。

北側に「けやきのテラス」をつくる

北側の土留実証棟との間にできるオープンスペースは、けやきを植樹した中庭的なテラスとして計画し、土留実証棟の学生ホールと同レベルで空間的に連続させて二つの建物を結びつけます。

西側の緑へ眺望を繋ぐ

西側で接する丘陵地の緑に対して、建物の高層から視線が抜けるようにします。



2. 内と外がとけあう建物：中外部空間を積極的に取り入れる

深い谷のある中外部空間は、室内と外部との中間領域であり、そこは物をささげ、風が通り抜け、夏の涼風を知らずる気持ちのよい空間となります。緑あふれる環境の中でありながら、その心地良さもいえます。またそれは学生たちがインフォーマルに集い、語り合う広場にも有用な空間であり、学生たちの活動が内部からあふれ出し、建物の表情に生き生きとした賑わいを醸成し出します。

オープンステップテラス

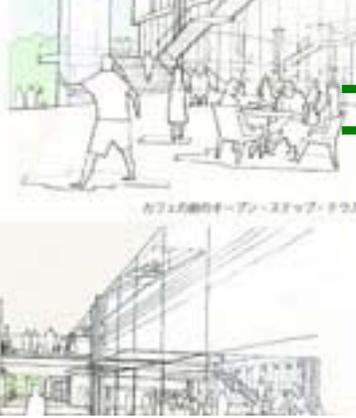
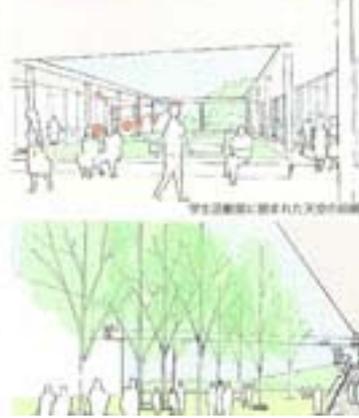
植樹帯に沿って、斜置立物を生かしてキャンパスの南北から集まってくる人の流れを自然に引き止める中外部空間を設けます。それは大きな広の下に、緑の森が階段とエレベーターで結ばれる主要な空間であり、そこに学生たちが日常的に最もよく利用する主要な機能（図書、カフェ、食堂、ラウンジ）への入口をすべて集めます。そこでは学生たちが行き交い、立ちまわり、談笑し、くつろぎ、共に生き生きとした日々が営まれます。

敷地に植樹帯のロッジア

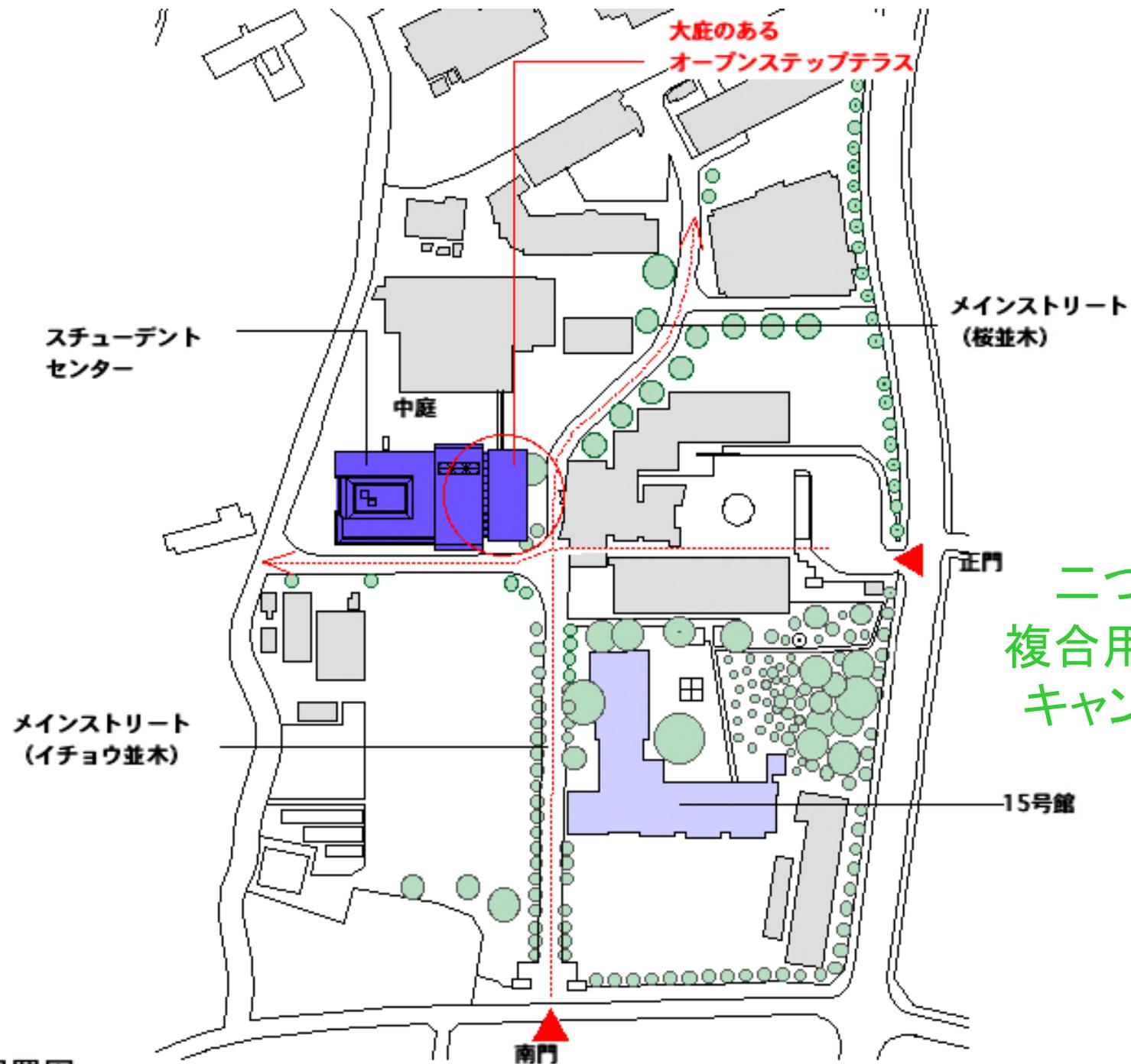
敷地に計画する緑木林の広場に対して、地上階に中外部のロッジアを設けます。そこはフルオープンにできるラウンジで内部と一体的に連続し、読書やロッカー、展示場に入居する学生たちに、気持ちの良い中外部空間を提供します。また、多目的ホールのためのコウアイエのような機能ももたします。

屋上中庭を通る天空の回廊

下階のオープンスペースと上階の天空回廊を繋ぐように、建物に開いた中外部空間を設けます。



コンペ提出資料



二つの軸線上に
複合用途の建築で
キャンパスの中心
をつくる





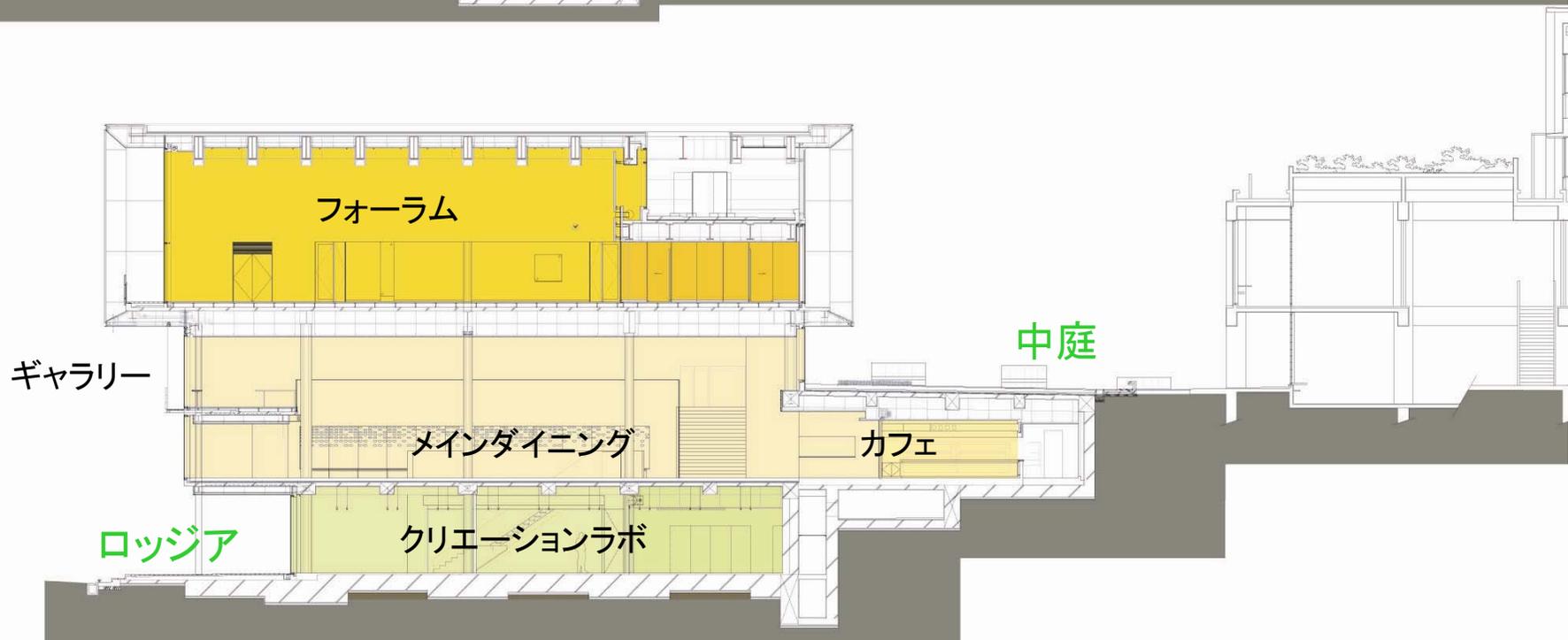
オープンステップテラスを覆う大屋



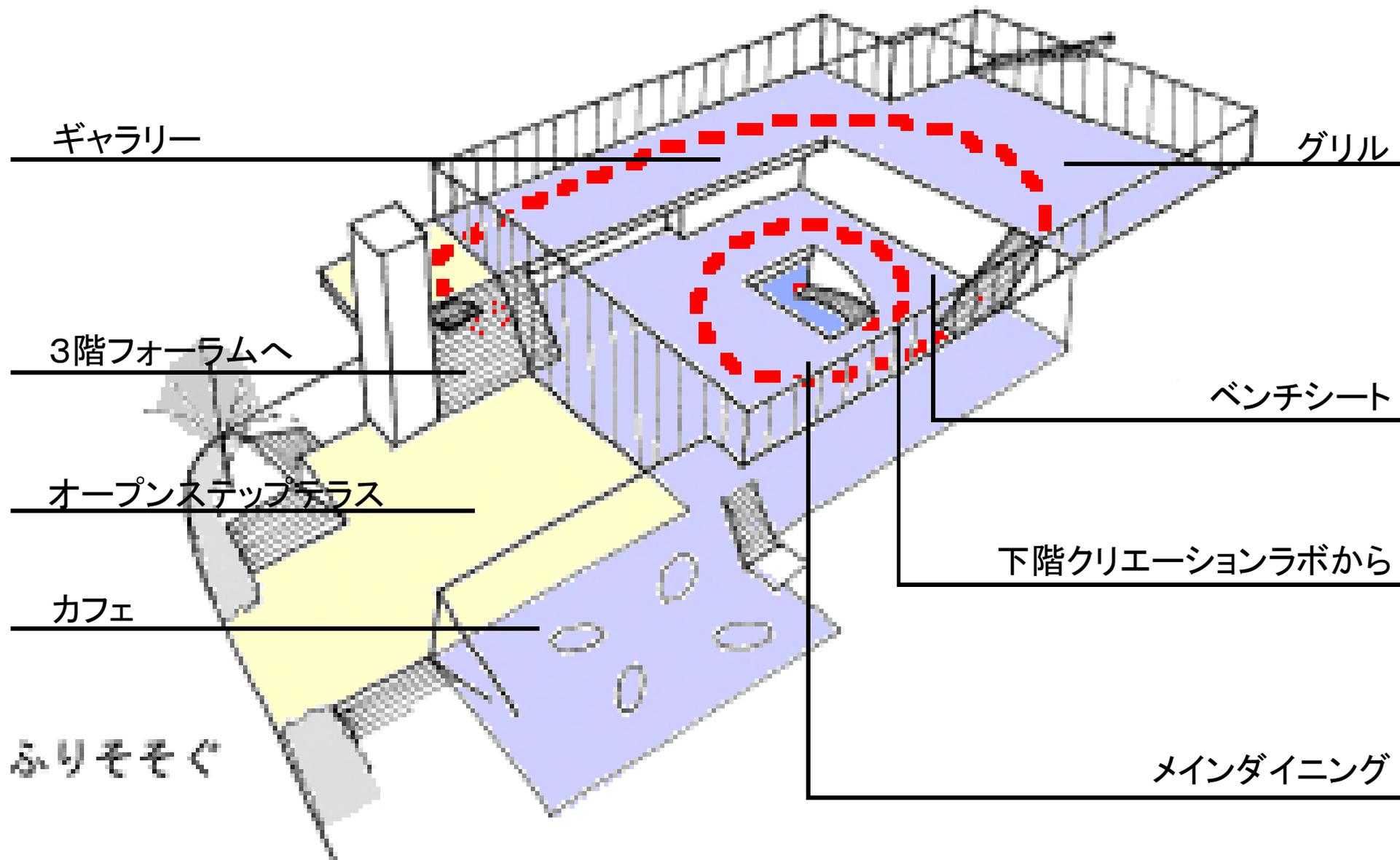
立体動線を内包する半外部空間



既存棟へと伸びる
ブリッジ



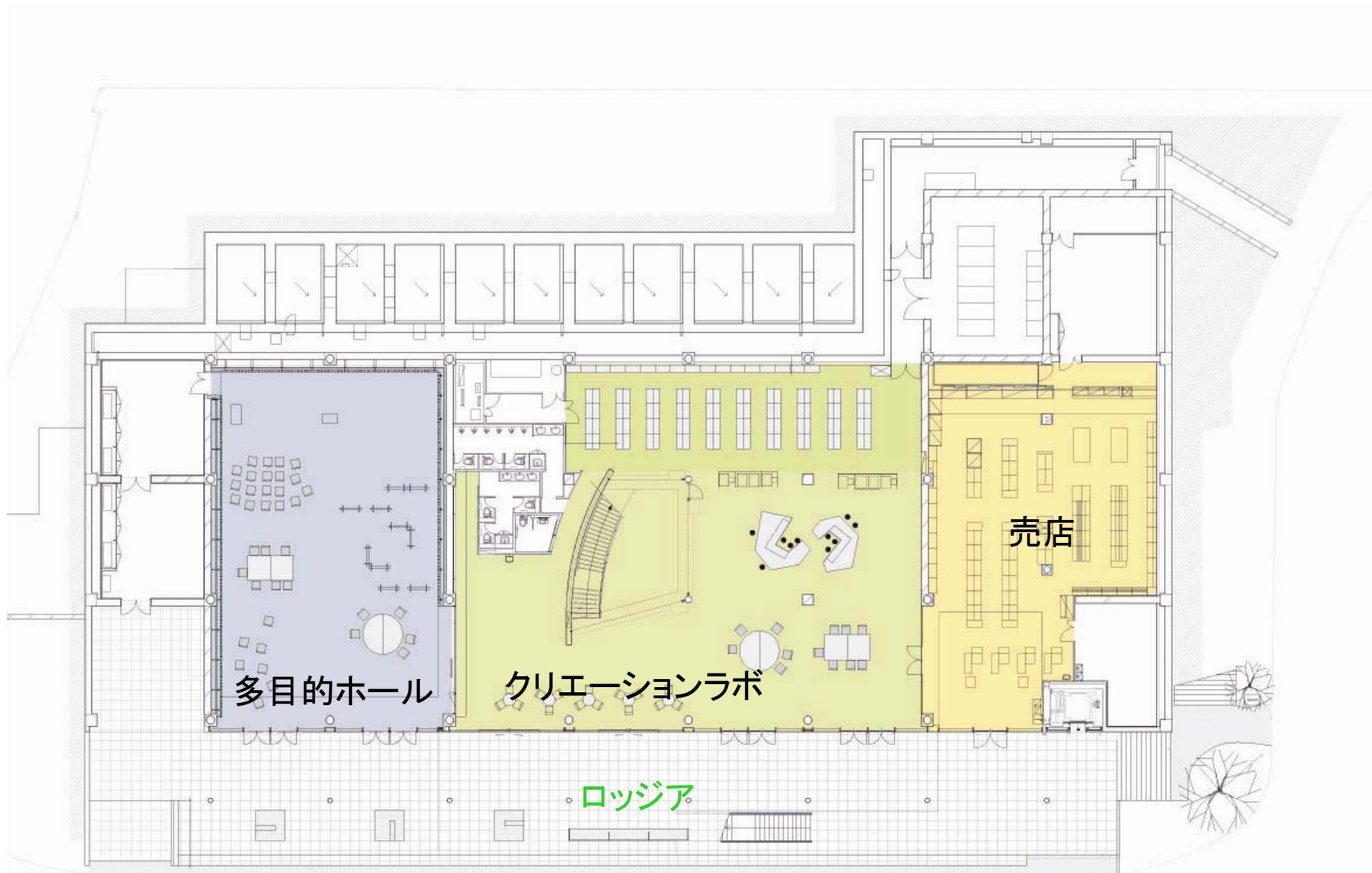
高さの異なる空間が組み合わされた断面



空間がスパイラル状につながり、様々な場所をつくる



立面は人の活動によってつくられる



ものつくりをサポートするB1F

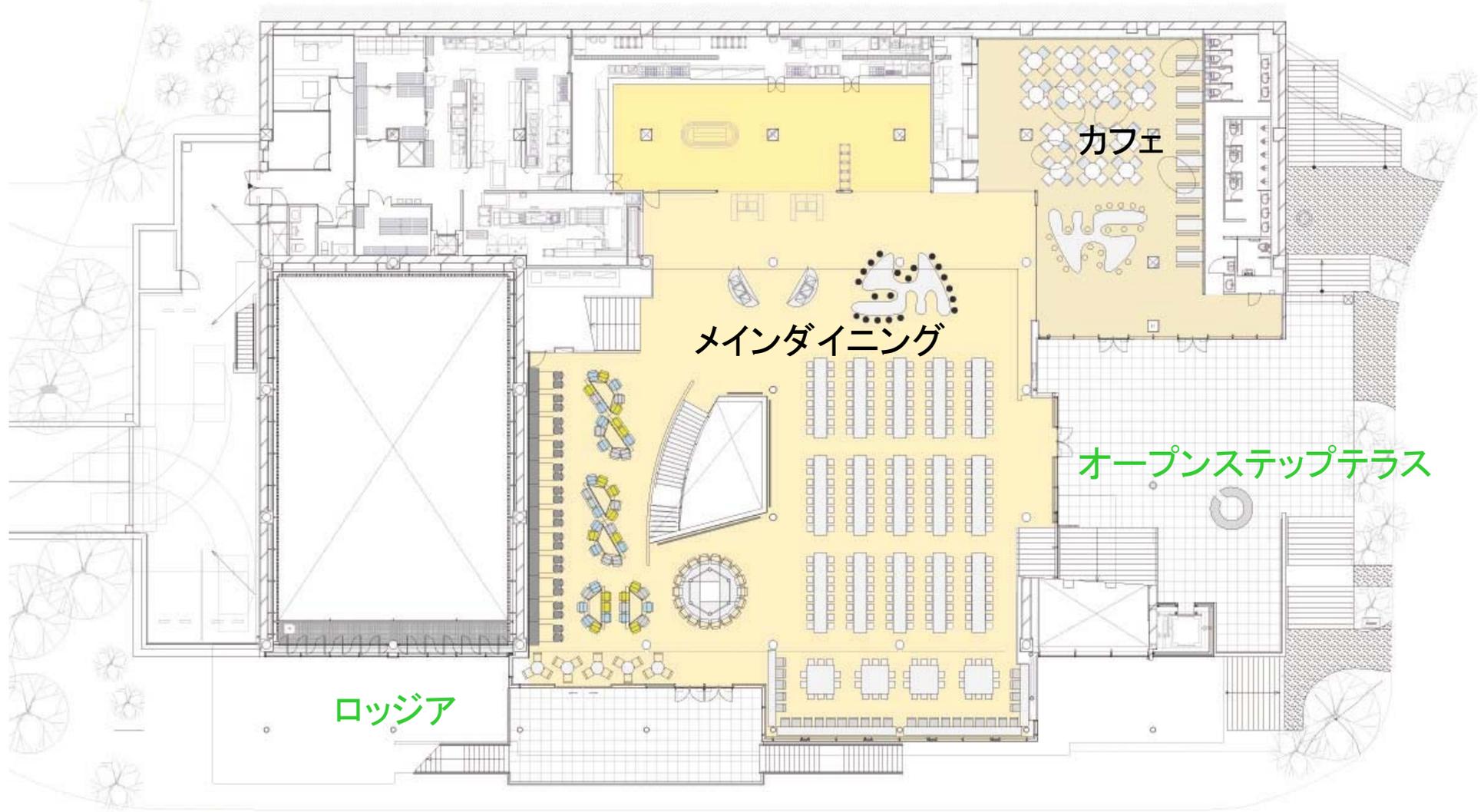
平土間の多目的ホール



クリエイションラボ



場所を選べるレストラン 1F





コンクリートテーブルのあるメインダイニング

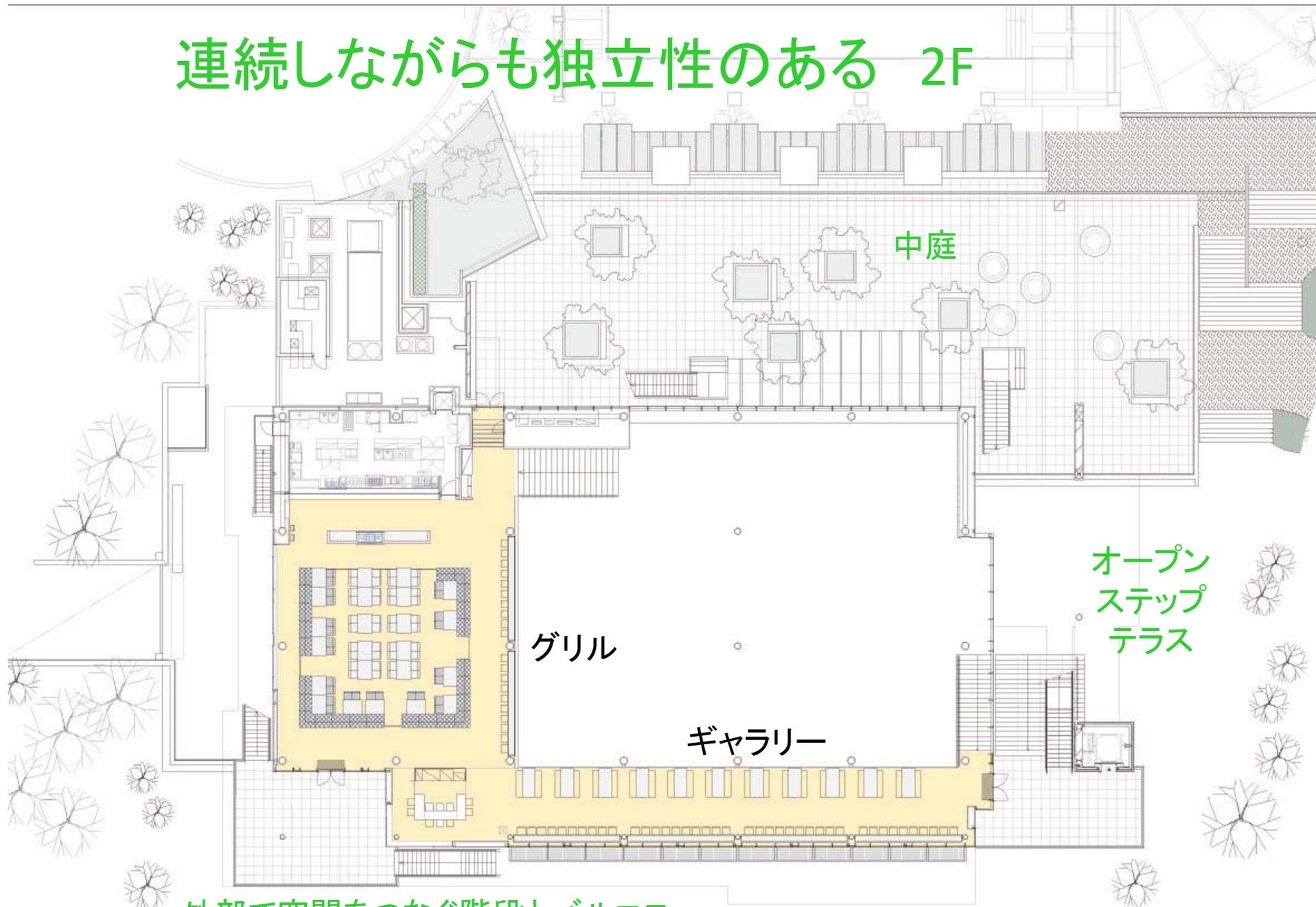
様々な場所のあるダイニング
天井の低い窓際席





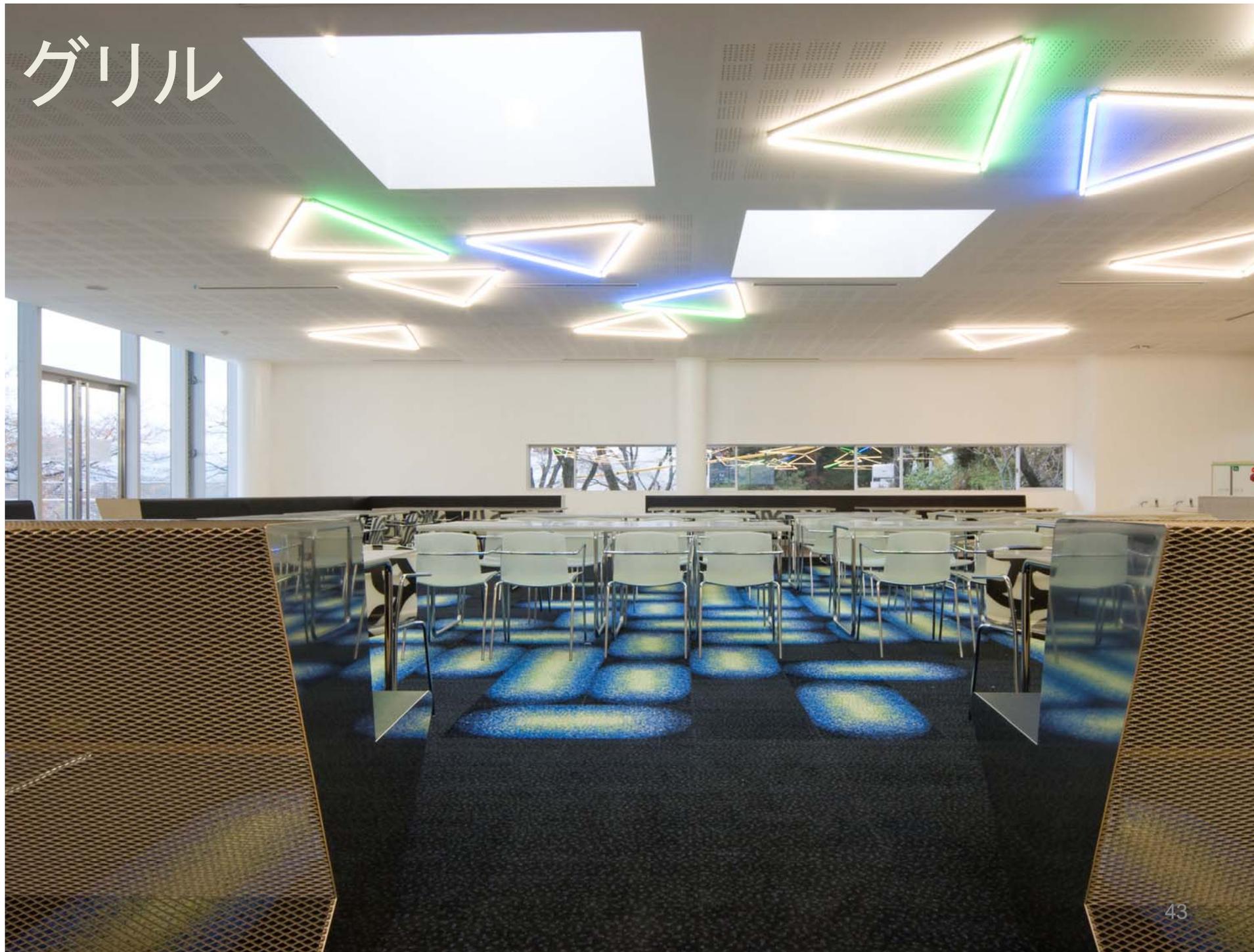
クイックテーブルのあるカフェ

連続しながらも独立性のある 2F



外部で空間をつなぐ階段とバルコニー

ゲリル



ギャラリー



眺望を楽しめる別世界 3F





フォーラム

■ 東北大学（青葉山1） センタースクエア

1. 新しいプログラムがキャンパスの中心をつくる

レストラン

大講義室

大会議室

意思決定部門を含む事務室

2. 人と人の出会いを生み出す豊かな外部空間をつくる

クォードラング

サウスコート

ノースガーデン

3. 気軽に立ち寄れる場所の創出

ブックカフェ

1) 魅力ある環境としての計画

①尾根の風情を活かした新しい建群としての建築

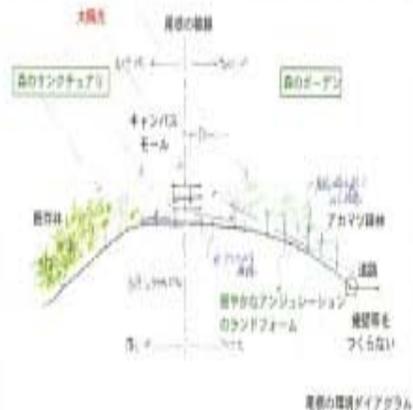
東西方向の尾根上にある敷地特性を活かし、その線に沿ってリニアな形状の建築を配置します。この構成はキャンパスの東と西の新設群を結びつけ、キャンパスの主役である学生と教職員の様々なアクティビティを受け止めて、尾根のランドスケープの中で新しい建群としての役割を果たします。

②明るく動的な南側と落ち着いた静的な北側環境

自然地形の中では日照条件や気象の影響によって、尾根筋の南側と北側で異なる環境が形成されます。この特性を活かし、良好な日照が得られる敷地の南側は、斜面の緑豊かな樹林(森のサンクチュアリ)を背景として明るいキャンパスモールに沿って賑わいのある(交流テラス)とし、南からの眺光をうける建物の北側は、穏やかで静かな思索の空間(アカマツガーデン)を計画します。

③おらかな尾根のランドフォーム

建物の北側に広がる(アカマツガーデン)は、原地形の名残を活かしつつ、北側の3号道路から緩やかに続く斜面とし、可能な限り親壁のような土製の構造物は排除して、穏やかなアンジュレーションをもつランドフォームとします。この地域では、アカマツ林が丘陵地の尾根に成立する二次林の代表的植生となっています。敷地の中に残存するアカマツを活かしつつ、新たに移植を行うことによって、全体が穏やかで明るい森林のランドスケープとします。柔らかく有機的な曲面で構成される空間の中をスロープに沿ってゆったりと歩く人々の姿が尾根のランドスケープを象徴する情景となります。



2) キャンパスライフの中心高設としての利便性、交流拠点性

①リニアな建物とパビリオン

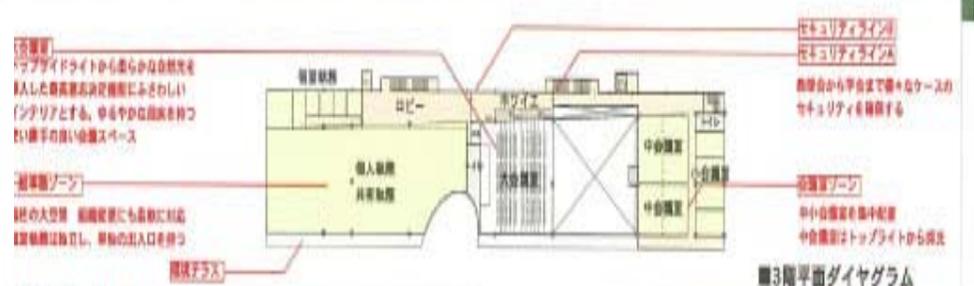
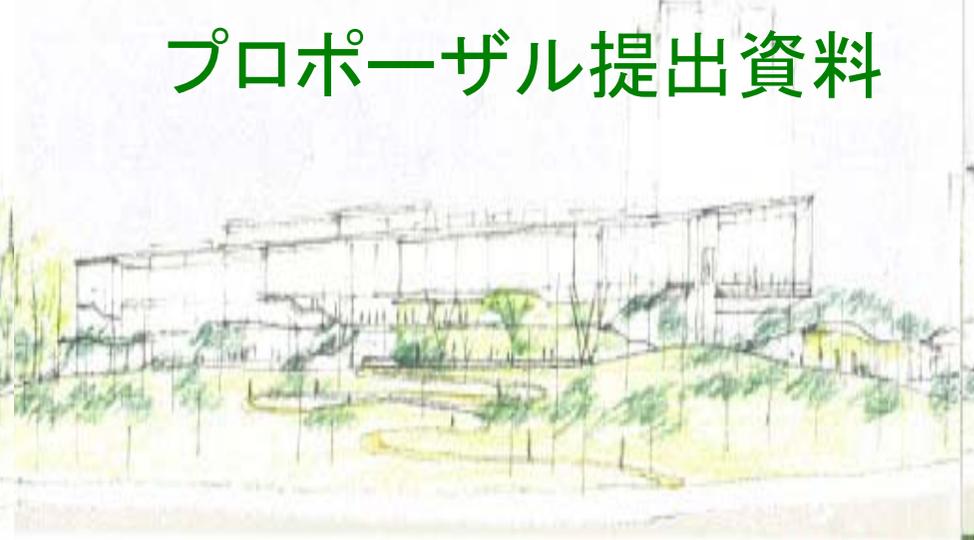
キャンパス内の人の流れを受け止める東西軸のリニアな建物は、一方で青葉記念館へのピスタと動線をブロックします。風景の流れを確保するためにリニア棟の足元を開放し、既存の松林を生かし、パビリオンタイプの独立棟を配し、2棟の建物で青葉記念館へのゲートを構成します。(配置ダイアグラム参照)



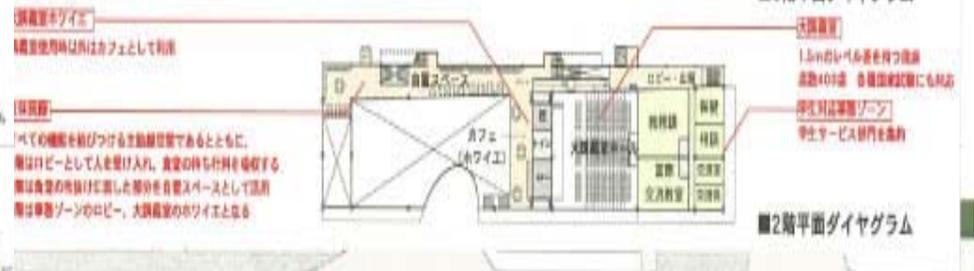
②明確な層構成

リニア棟は3層とします。食堂・購買などの学生生活支援機能は1階(歩道側)に、アテ(1階)に配置し、2階は学生生活支援機能と

プロポーザル提出資料



■3階平面ダイヤグラム



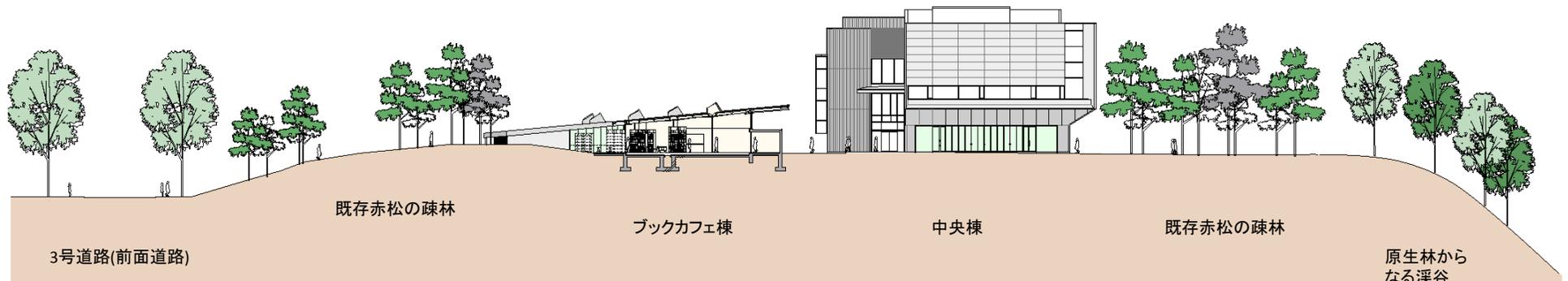
■2階平面ダイヤグラム

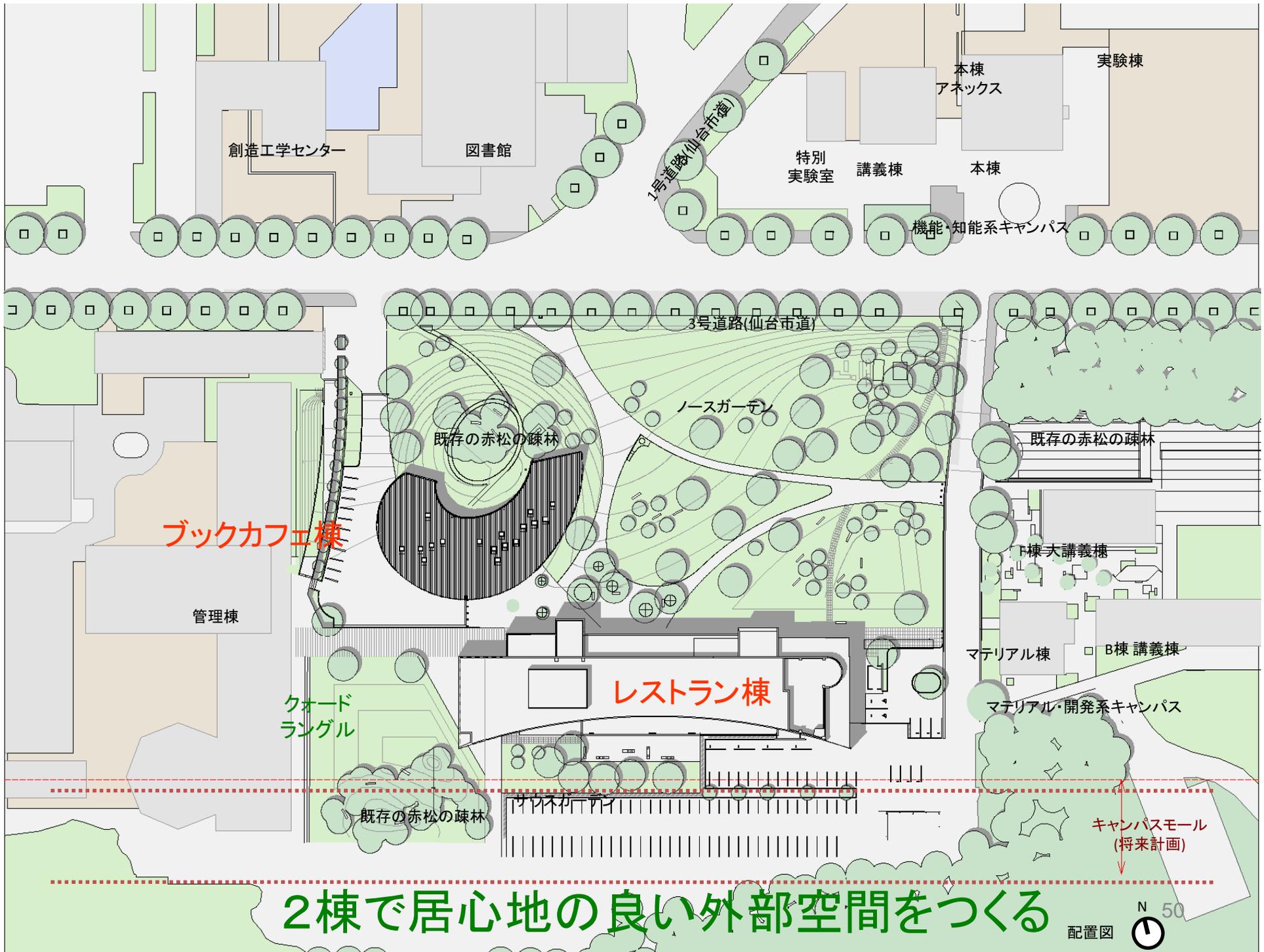


アカマツ48
既存の森林を確保し、土木構築物を排除、自然のリズムでゆるやかな

北側前面道路より中央棟とブックカフェ棟を望む

稜線を建築化しキャンパスをつなぐ







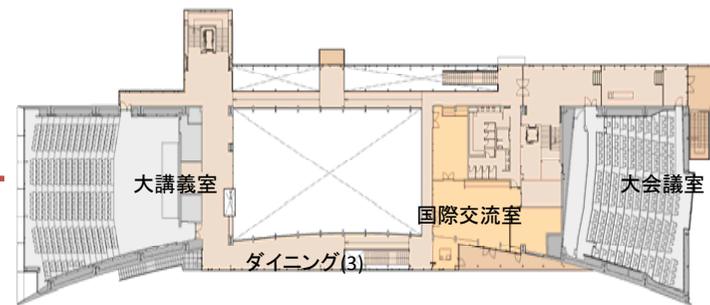
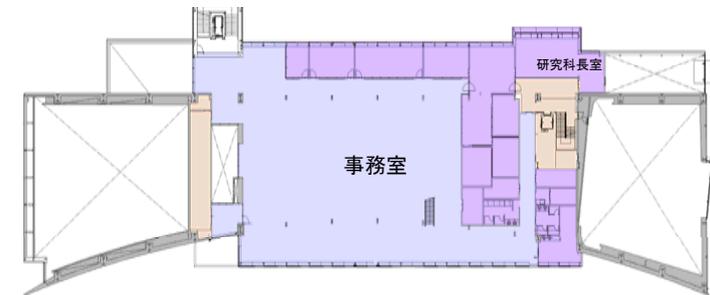
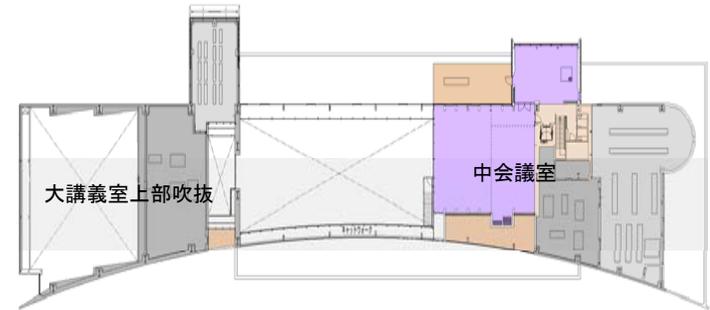
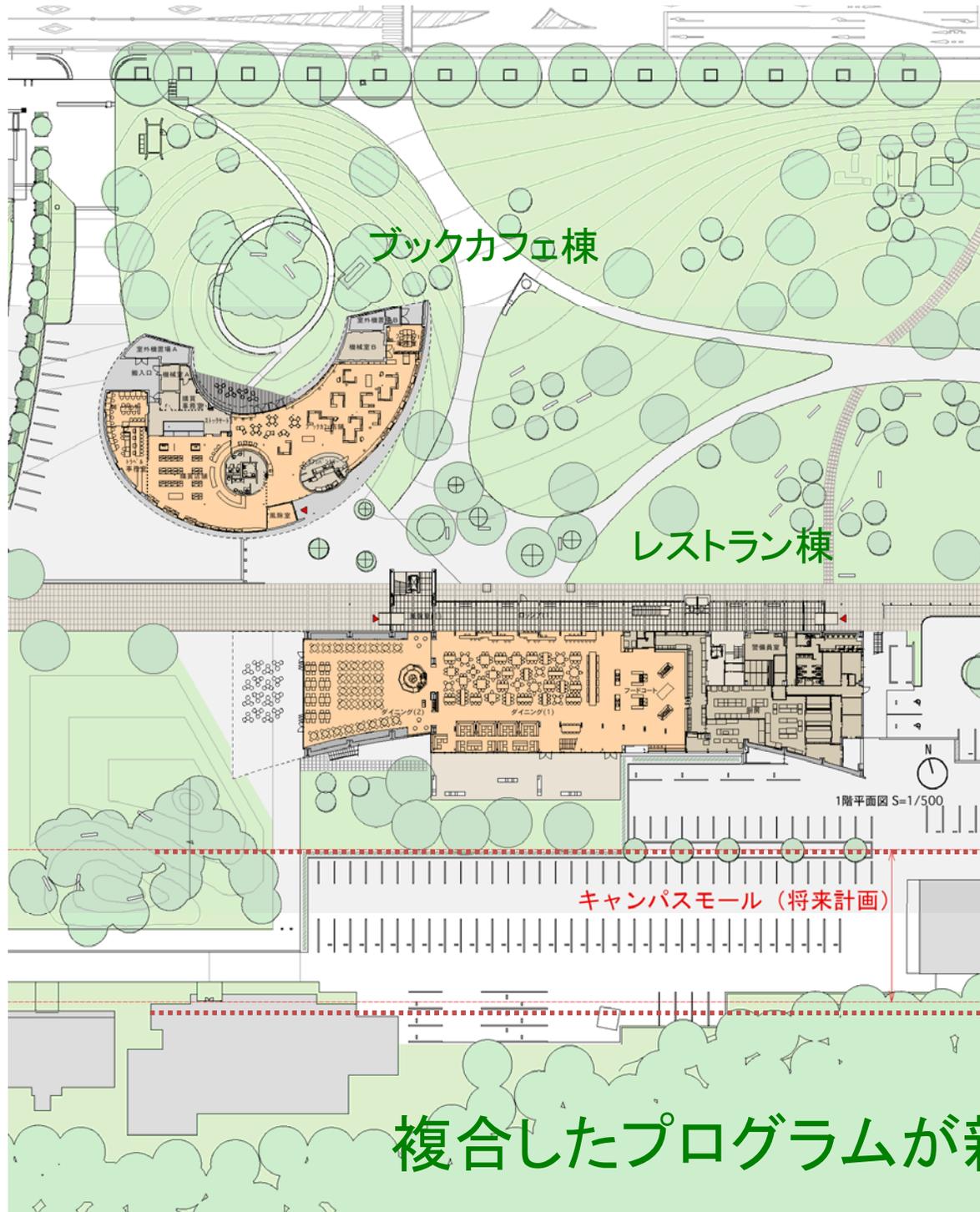


北側ファサードを望む



中央棟西およびブックカフェ棟エントランスを望む





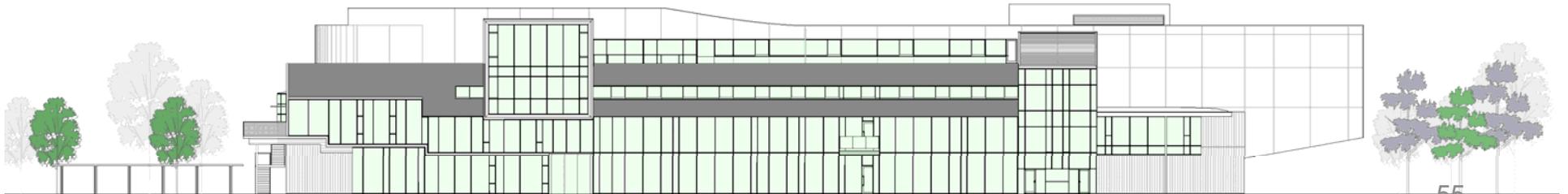
複合したプログラムが新しい中心をつくる



クウォードラングからテラスをのぞむ



西側エントランスを望む

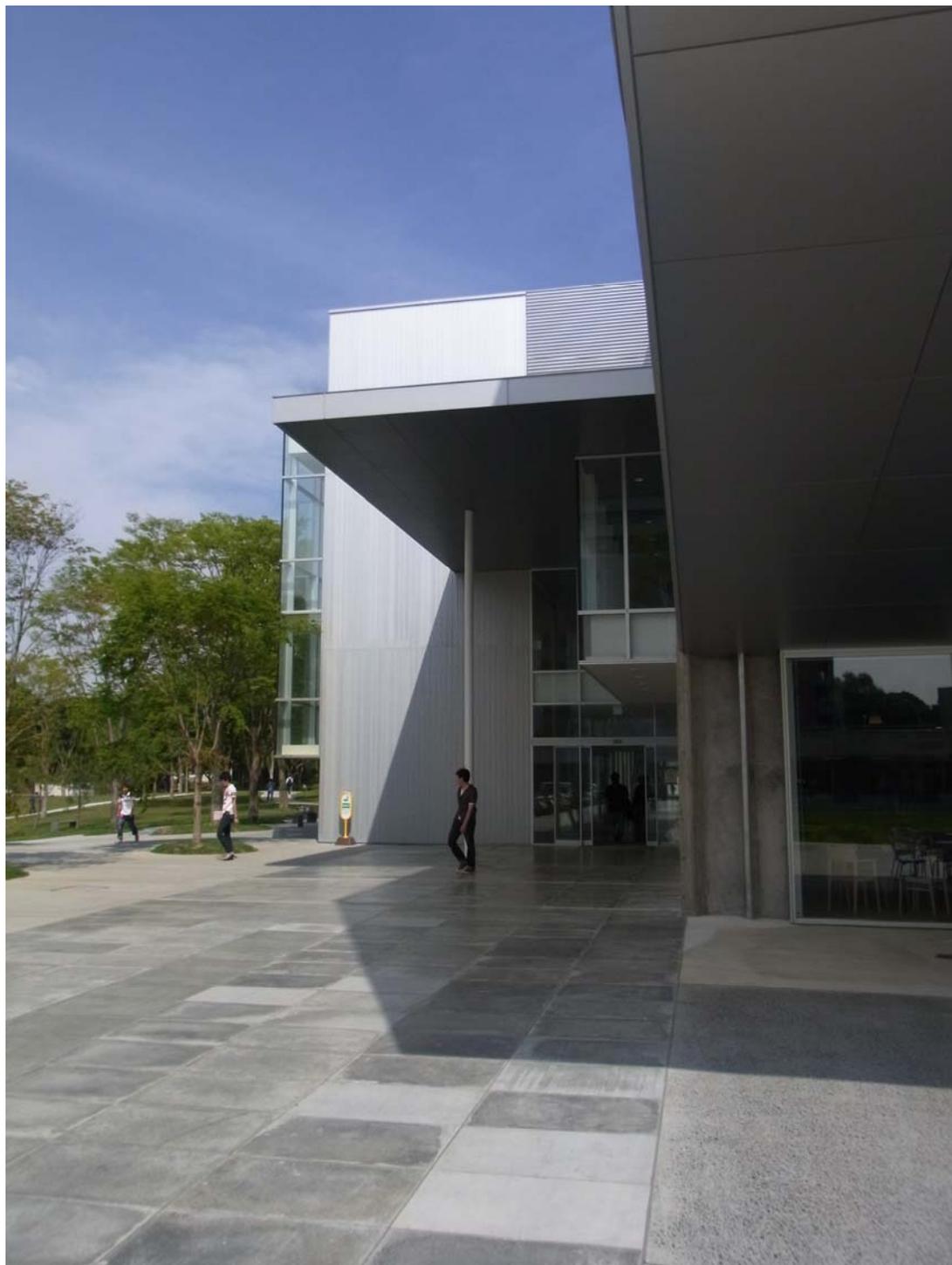


北側断面図



ロτζィアと垂直動線

メインエントランス





既存管理塔よりクォードラングル越しに中央棟、ブックカフェ棟を望む

クォードラングル



ダイニング2テラスより、ブックカフェ棟を望む

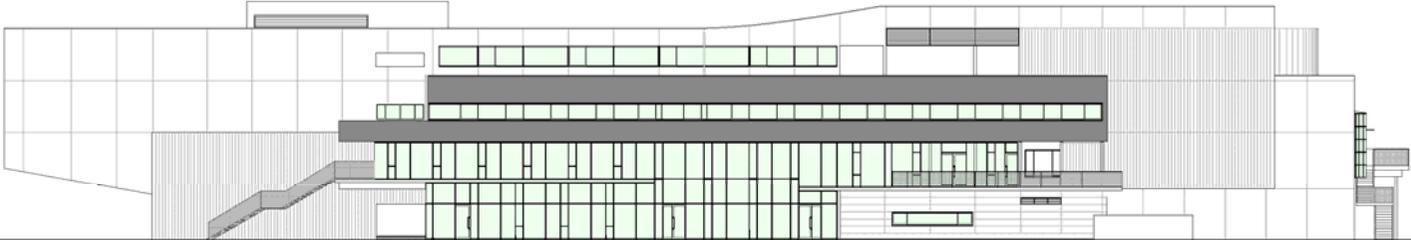
サウスガーデン



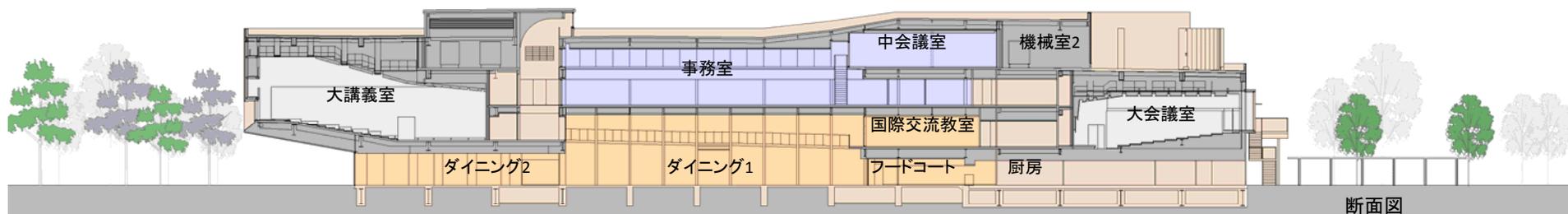
ダイニング1テラスを望む



南面のガラスカーテンウォールのファサード



南側断面図



機械室1

ラウンジ

ロビー

階高の違う空間を組み合わせる

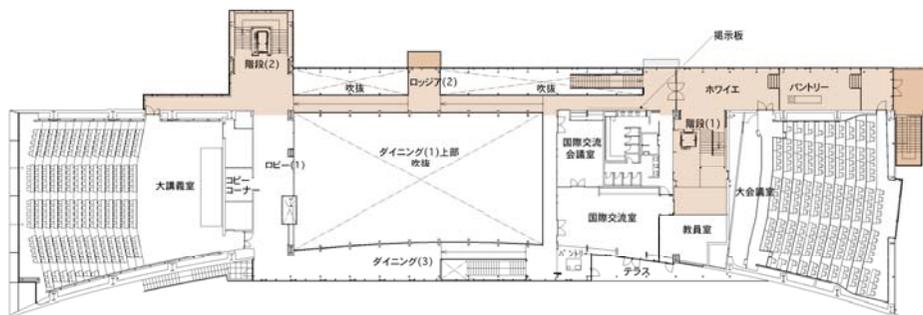


西側エントランスよりロジニアを望む



ホワイエを望む

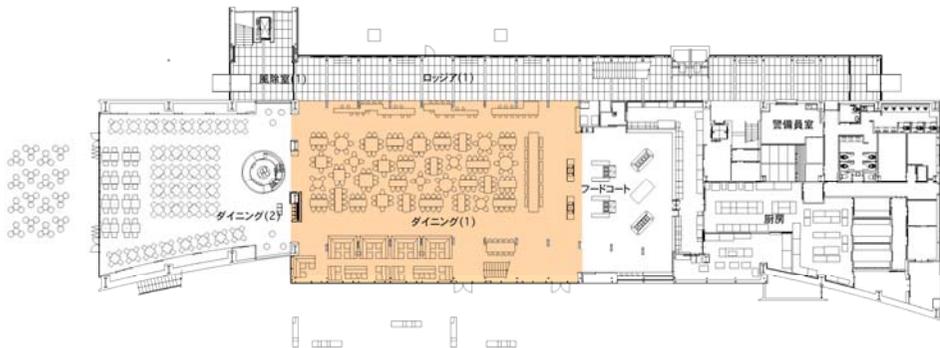
外部空間のような2層吹き抜けのロジニア



2階ホワイエ手前よりロジニアを望む



形の異なる家具が並ぶダイニング1



61
ダイニング1南西より南東を望む



外部へと視線が連続するレストラン1

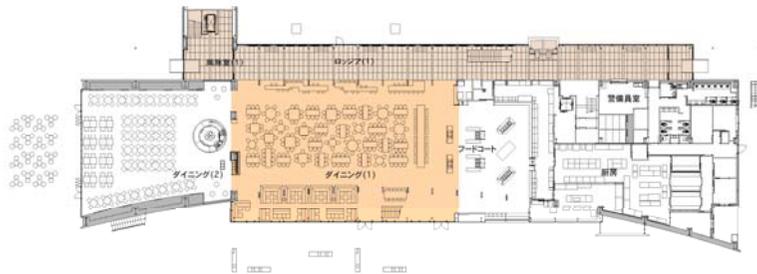


ダイニング1の南側を望む



ダイニング3よりロジアを望む

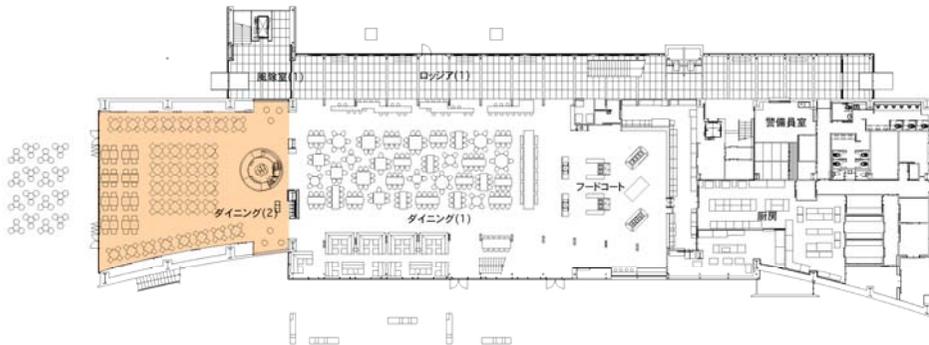
吹き抜けに浮かぶダイニング3





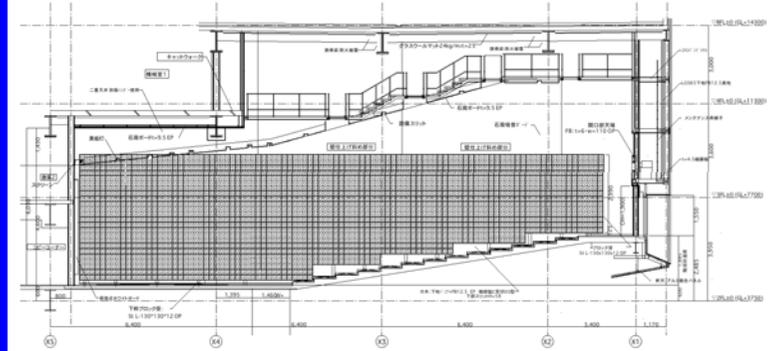
円と円弧を描く2つのカーテン

多用途に使えるダイニング2



ダイニング2よりクォードラングルを望む

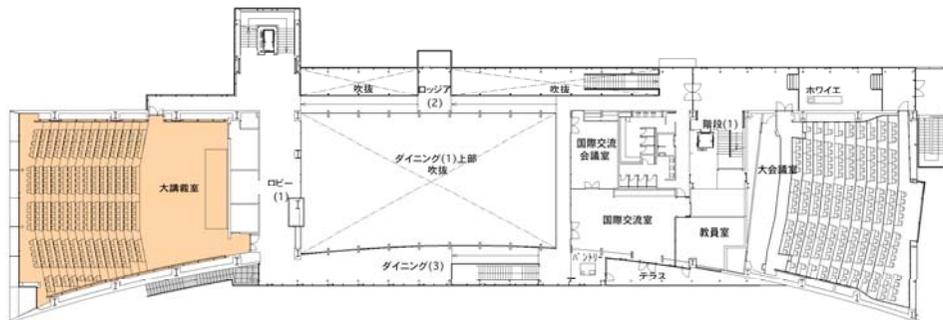
フルオープンのサッシュとカーテンで空間を変える

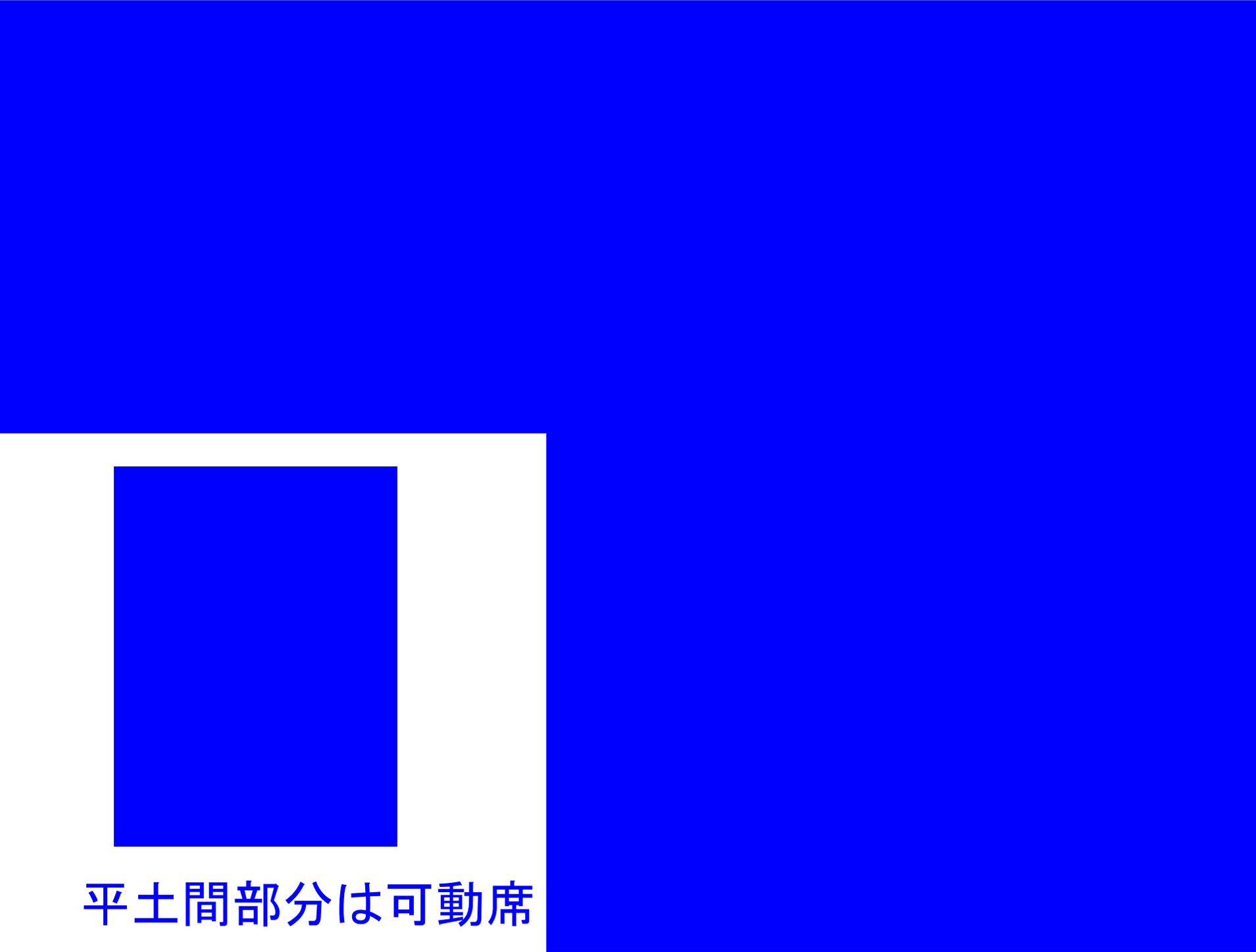


大講義室展開図

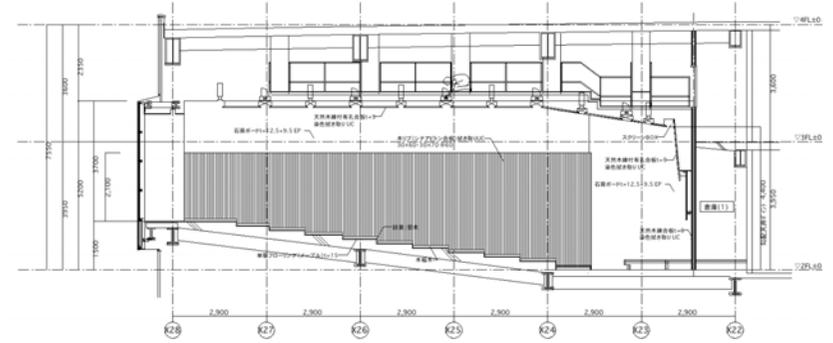
北入口より南壁面を見る

ポスターセッションにも使える大講義室





平土間部分は可動席

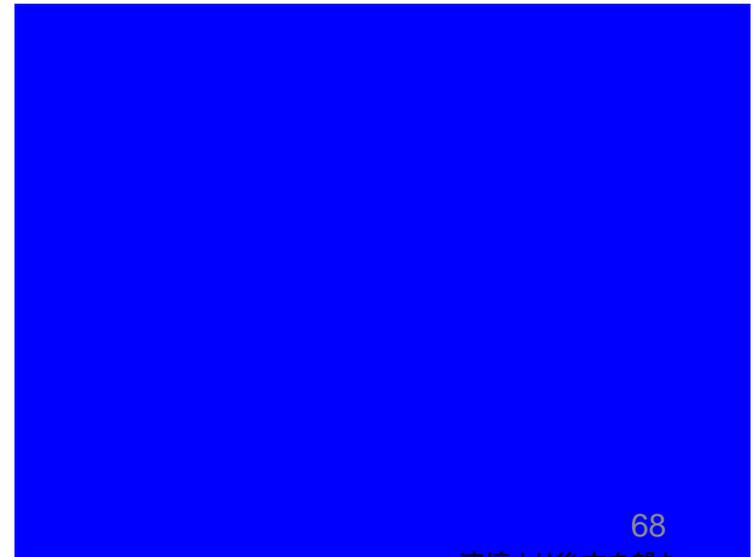


大会議室展開図



後方より演壇を望む

教授会に使う大会議室



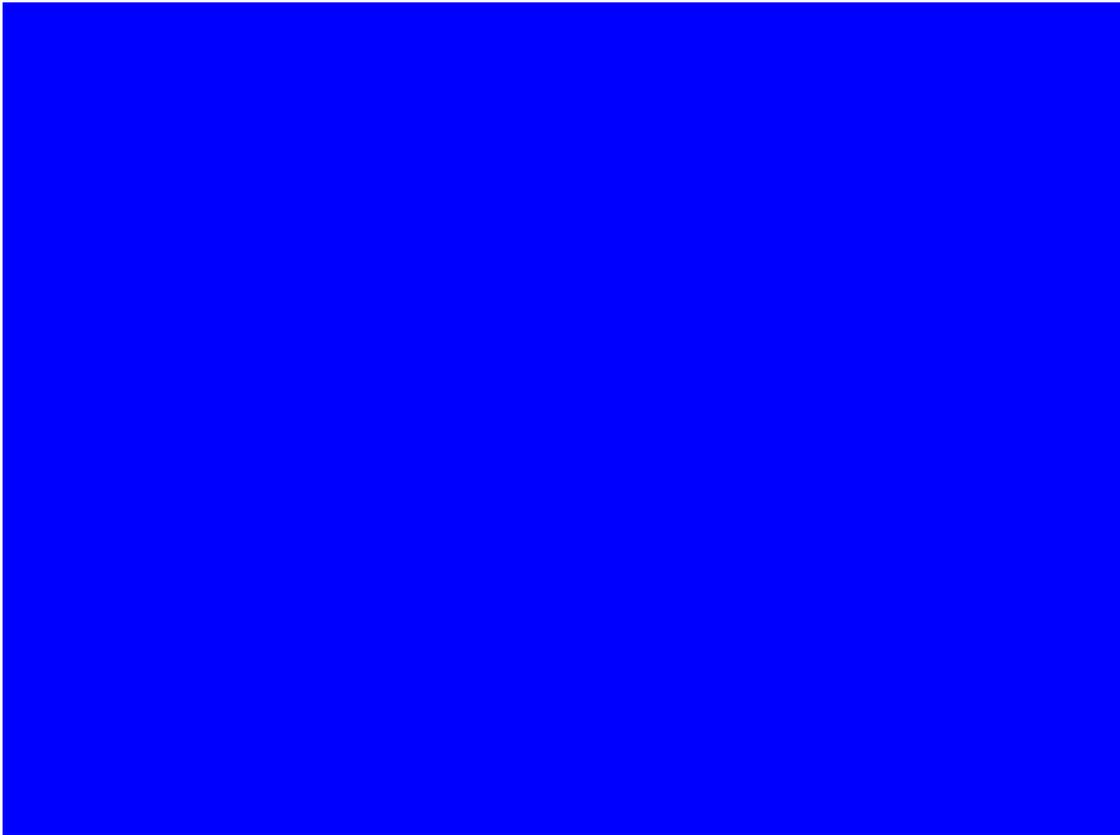


中会議室より事務室を望む

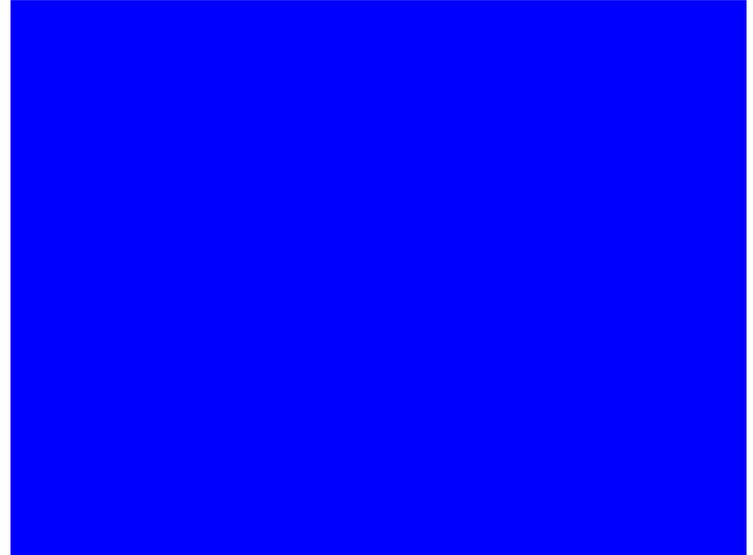
カーテンを閉めた状態でも密閉感はなく、
和らいだ落ち着いた空間になっている

意思決定の場 中会議室

中会議室のホワイエ的空間として機能するロビー



カウンター越しに執務空間を見る



会議スペース



70
事務室よりラウンジを見る

意思決定部門を一カ所に

BOOOK

